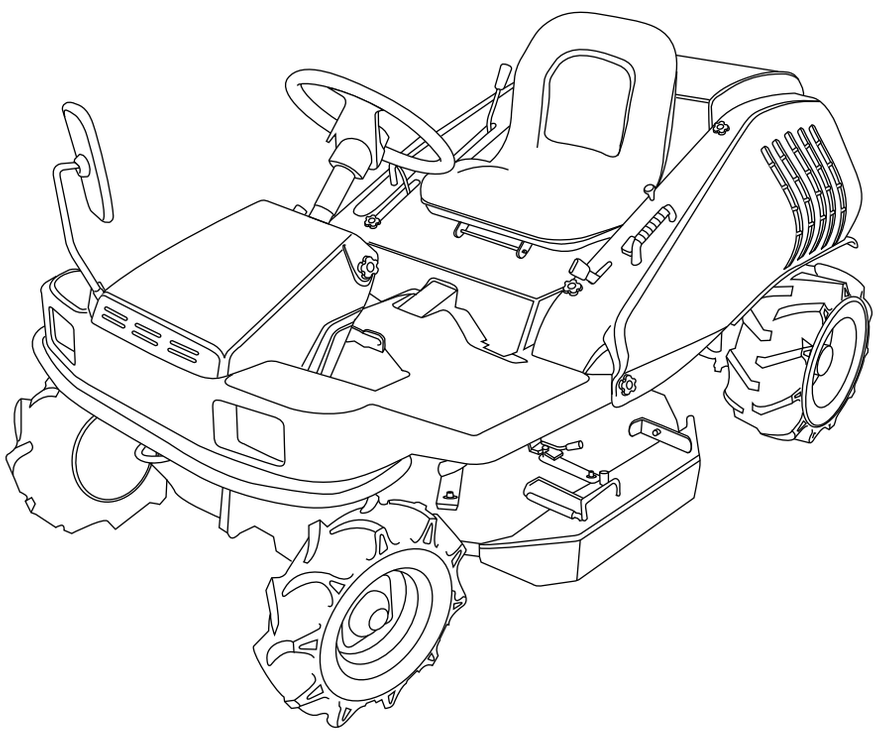
CANYCOM

草刈作業車
ＣＭ２１０３

取扱説明書



⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

5314 5201 001

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

http://www.canycom.co.jp/

■本社営業部 TEL 0943(75)2195 FAX (75)4396
■海外センター TEL 03(3552)6277 FAX (3552)6288
■東京センター TEL 03(3552)6255 FAX (3552)6288
■仙台センター TEL 022(281)1255 FAX (281)3141
■埼玉センター TEL 0495(77)4511 FAX (77)1561
■大阪センター TEL 0790(42)6031 FAX (42)6035
■広島センター TEL 0824(34)5996 FAX (34)5997
■福岡センター TEL 0943(76)2583 FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の 4 段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	特に注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、本書をお読みいただいて、正しい取扱いをしてください。

⚠ 警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠ 警　告

本製品を公道および公道とみなされる道路で運転される場合は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。交付申請の方法は「11. 小型特殊自動車登録申請の手続き」を参照してください。なお、公道運転時には普通自動車免許が必要です。運転時は必ず免許証を携帯してください。

⚠ 警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

目　　次

1. はじめに 1

1.1 本書の目的について ····· 1
1.2 本書の構成について ····· 1
1.3 本製品に貼付してある警告ラベルについて ····· 2

2. 保証とアフターサービスについて 5

3. 安全運転・作業のための心得 6

4. 各部の名称とはたらき 11

5. 製品仕様 13

5.1 本製品の仕様 ····· 13
5.2 付属品明細 ····· 14

6. 運転と操作 15

6.1 始動前の準備 ····· 15
6.1.1 燃料の給油 ····· 15
6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給 ····· 16
6.2 始動のしかた ····· 17

6.3　運転のしかた ····· 20
6.4　停止のしかた ····· 21
6.5　駐車のしかた ····· 21
6.6　緊急時の移動のしかた ····· 22
6.7　後輪スリップ時の回避操作 ····· 23
6.8　作業のしかた ····· 23
6.9　草吐出口カバーの開閉のしかた ····· 25
6.10　スライススライディング機構の操作のしかた ····· 26
6.11　消火器の使い方 ····· 27

7.　保守（お手入れ）　28

7.1　定期点検表 ····· 28
7.2　給油・給脂・注油・給水一覧表 ····· 31
7.3　消耗部品（交換部品）一覧表 ····· 32
7.4　給油 ····· 33
7.4.1　エンジンオイル ····· 33
7.4.2　トランスミッションオイル ····· 34
7.4.3　ディファレンシャル（デフ）オイル、ナックルオイル ····· 34
7.4.4　HST オイル ····· 35
7.5　給脂・注油 ····· 36
7.6　給水（バッテリ液） ····· 37
7.7　清掃 ····· 38
7.7.1　エアクリーナ ····· 38
7.7.2　点火プラグ ····· 39
7.7.3　燃料フィルタ ····· 40

7.7.4 ファンハウジングと冷却ファン …… 40
7.8 調整 …… 41
7.8.1 走行 V ベルト …… 41
7.8.2 刈刃ロータリ V ベルト …… 41
7.8.3 ロータリストッパ …… 42
7.8.4 HST ペダル …… 42
7.8.5 ブレーキペダル …… 43
7.8.6 タイヤの空気圧 …… 43
7.9 交換 …… 43
7.9.1 オイルフィルタ …… 43
7.9.2 HST オイルフィルタ …… 44
7.9.3 燃料ホース・HST オイルタンク接続ホース …… 44
7.9.4 刈刃 …… 44
7.10 使用後のお手入れ …… 45

8. 格納（長期保管） 46

8.1 車両 …… 46
8.2 バッテリ …… 47
8.3 エンジン …… 47
8.3.1 エアクリーナエレメントの清掃 …… 47
8.3.2 エンジンオイルの交換 …… 48

9.　不具合発生時の処置　49

10.　本製品の移送　52

11.　小型特殊自動車登録申請の手続き　53

＜保証書＞

本書の巻末に添付

※　本製品の取扱説明を受けた後に、 受領証と共にお受け取りください。

＜付　録＞

「エンジン取扱説明書」

※　本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、 本製品について、 正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、 本書は、 はじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1. はじめに

この章では、 本書の目的、 構成について説明しています。
また、 本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2. 保証とアフターサービスについて

この章では、 本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3. 安全運転・作業のための心得

この章では、 運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4. 各部の名称とはたらき

この章では、 各部の名称とはたらきについて説明しています。

5. 製品仕様

この章では、 本製品の仕様について記載しています。 また、 付属品の明細についても記載しています。

6. 運転と操作

この章では、 運転前の準備、 運転手順および操作方法について説明しています。

7. 保守（お手入れ）

この章では、 定期点検、 給油、 給脂、 注油、 給水、 清掃、 調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8. 格納（長期保管）

この章では、 格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9. 不具合発生時の処置

この章では、 不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10. 本製品の移送

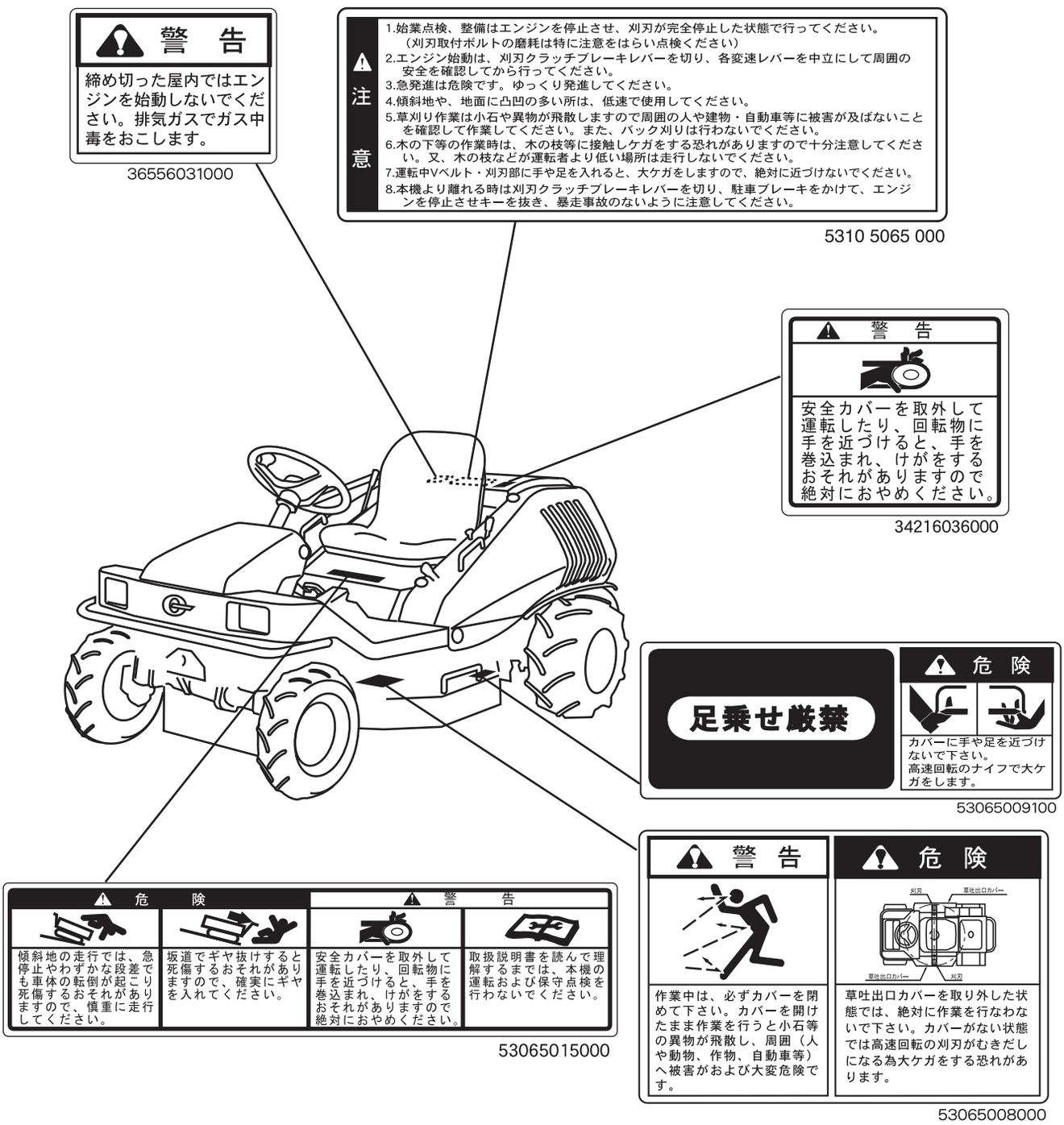
この章では、 本製品を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き

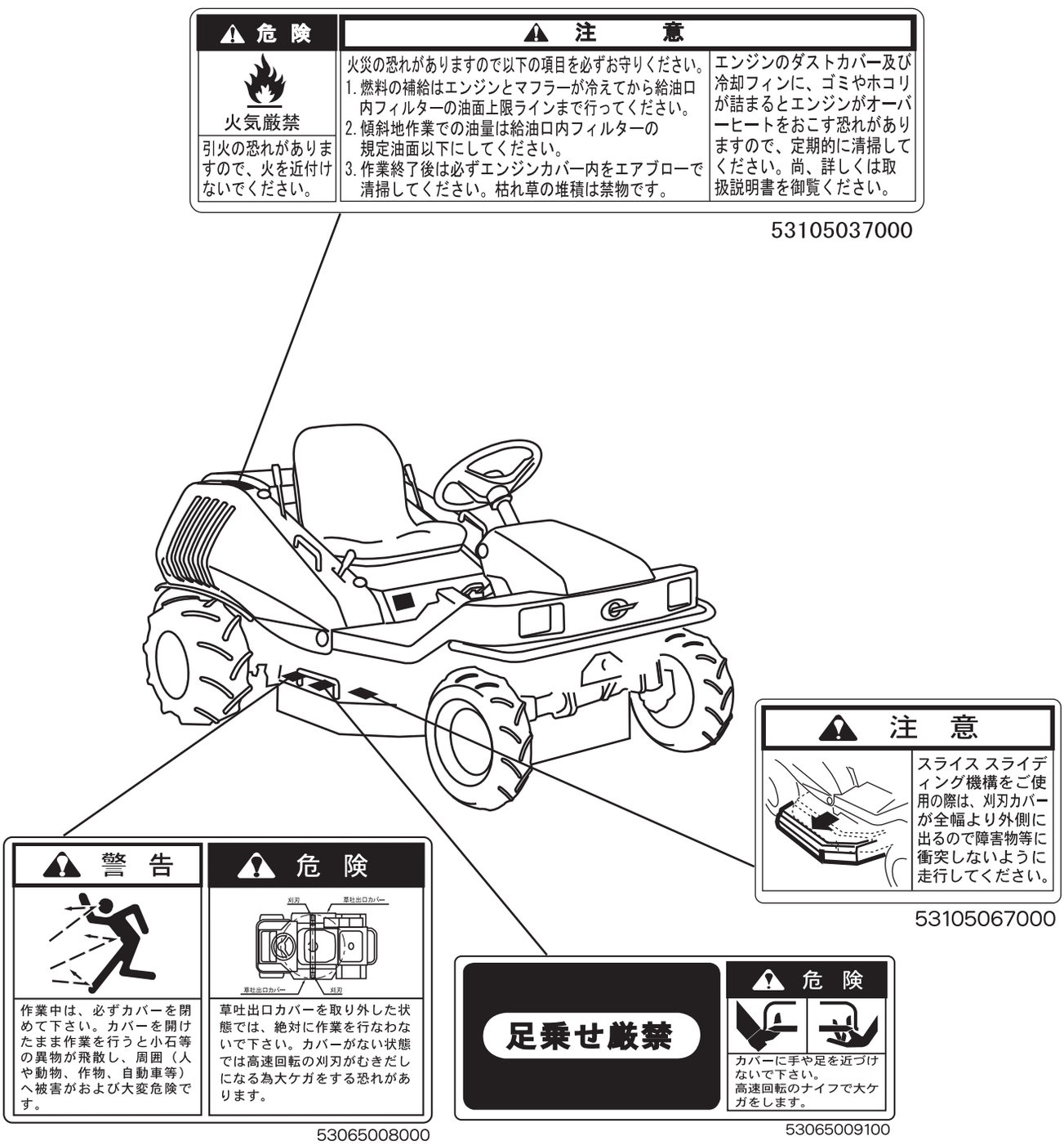
この章では、 小型特殊自動車登録申請に関する情報を記載しています。

1.3　本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。 はがれたり見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、 新たに貼付してください。



5310M-0104-010



5310M-0104-020

5310M-0104-030

2. 保証とアフターサービスについて

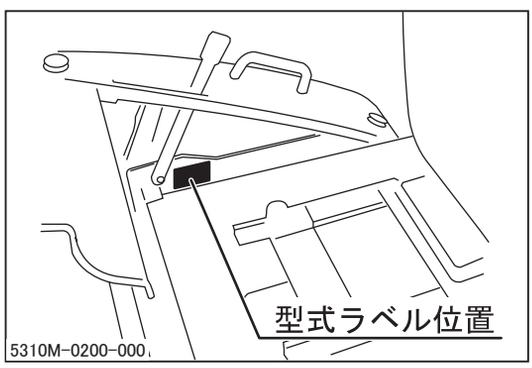
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に添付の保証書を参照してください。

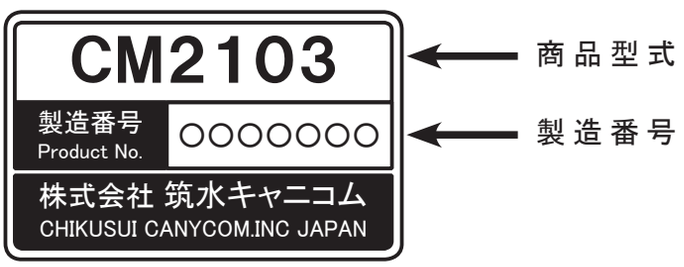
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第 5 章「製品仕様」を参照してください。☞ 13 ページ)

＜型式ラベル位置＞



＜型式ラベル＞



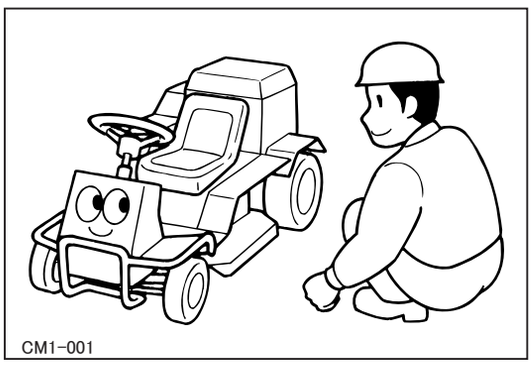
補修用部品の供給年限 (期間) について

本製品の補修用部品の供給年限 (期間) は、製造打切り後7年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

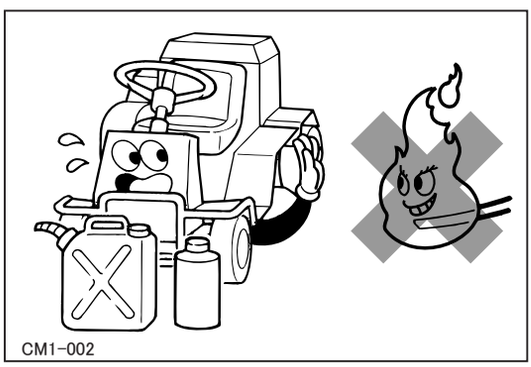
この章では、 運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。 本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、 安全運転、 安全作業を心掛けてください。

運転前の心得


CM1-001

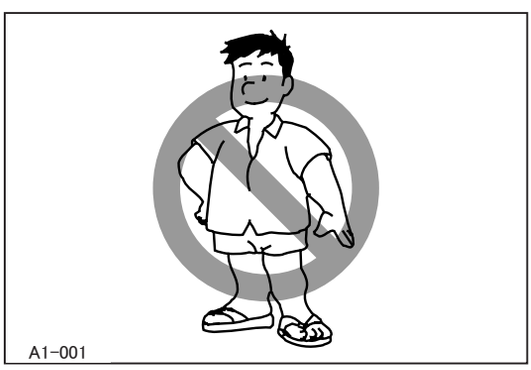
⚠ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、 異常箇所は直ちに補修してください。


CM1-002

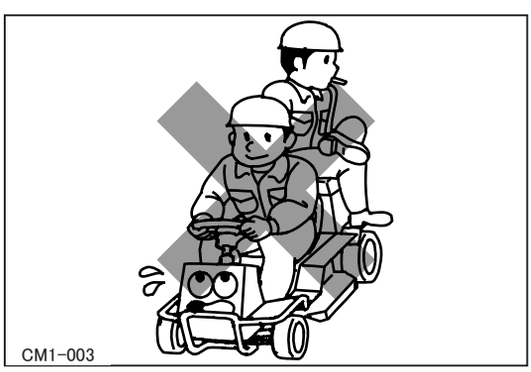
⚠ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。


A1-001

⚠ 正しい服装の励行

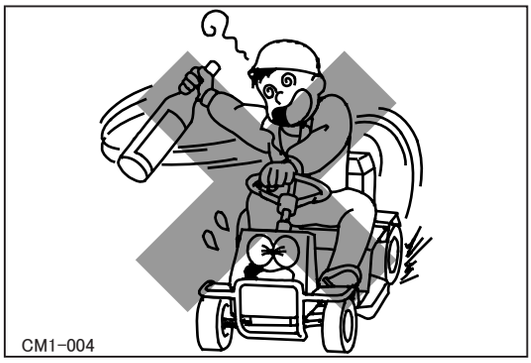
運転および作業にふさわしい服装を心掛け、 軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。


CM1-003

⚠ 同乗禁止

本製品は一人乗りです。 同乗者を伴う運転は、 重心の移動等が起こり大変危険です。 運転者以外は絶対に乗せないでください。

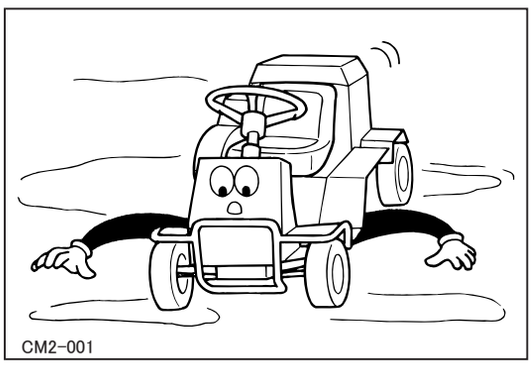
安全運転・作業のための心得



⚠ 無謀運転禁止

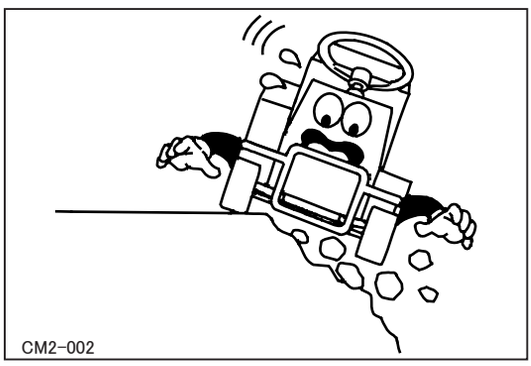
飲酒をして運転したり、 体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。 絶対におやめください。
また、 本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得



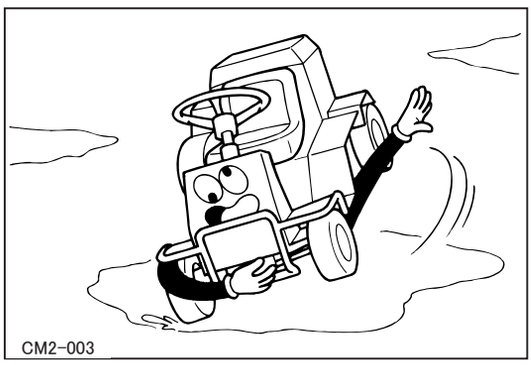
⚠ 安全速度遵守

走行時は、 走行路の勾配、 路面の状態に応じた安全速度で走行してください。



⚠ 路肩の崩れに注意

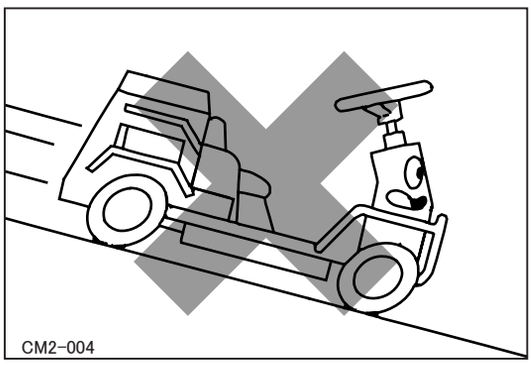
溝や土手の端を走行すると、 車両の重みで路肩が崩れる危険があります。 特に軟弱な路肩付近では速度を落とし、慎重に走行してください。



⚠ 急発進、 急加速、 急旋回、 急ブレーキの禁止

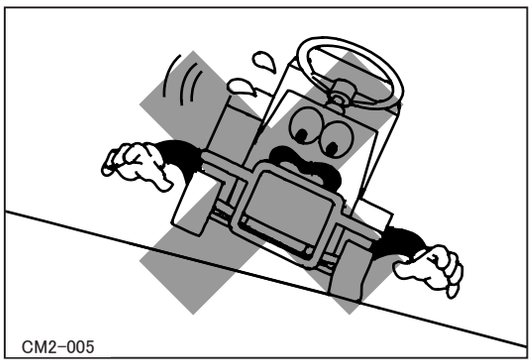
急発進、 急加速、 急旋回および急ブレーキは避け、 安全運転を心掛けてください。 発進の前には必ず周囲の安全を確認し、 軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。

安全運転・作業のための心得



⚠ 下り坂ではエンジンブレーキを

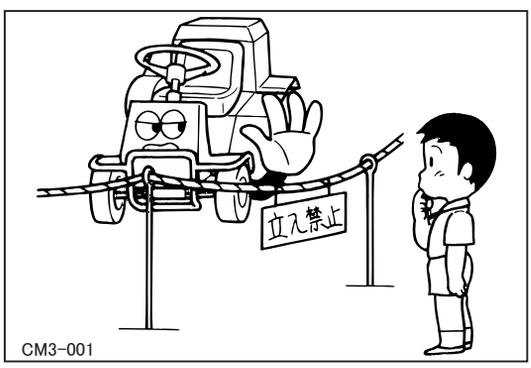
下り坂の前では、 一旦停止した後、 副変速レバーを低速位置に入れ、 エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください。



⚠ 斜面での旋回・横断禁止

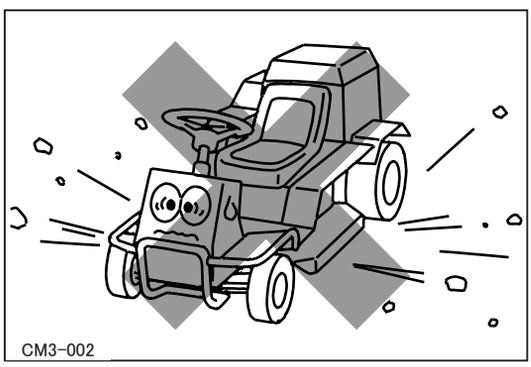
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。 斜面で旋回したり、 斜面を横断すると危険です。

作業時の心得



⚠ 作業中の安全確保（立入禁止）

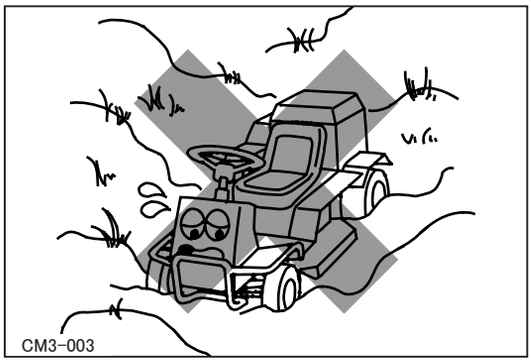
作業前に、 草刈作業中であることを掲示し、 必要な場合はガードロープを張る等して、作業範囲内に人（特に子供）が入り込まないように安全を確保してください。



⚠ 周囲へ配慮する

作業中に、 人や動物、 作物、 自動車等へ石や異物が飛んで被害が及ばないように十分注意してください。

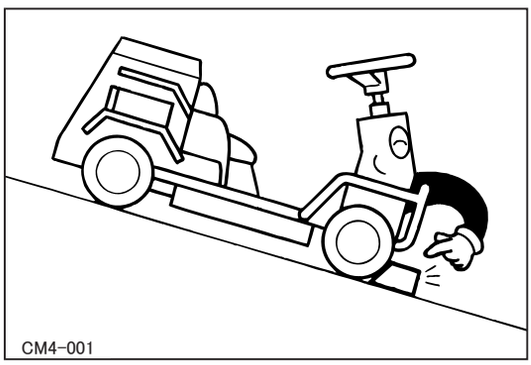
安全運転・作業のための心得



⚠ 危険な区域での作業禁止

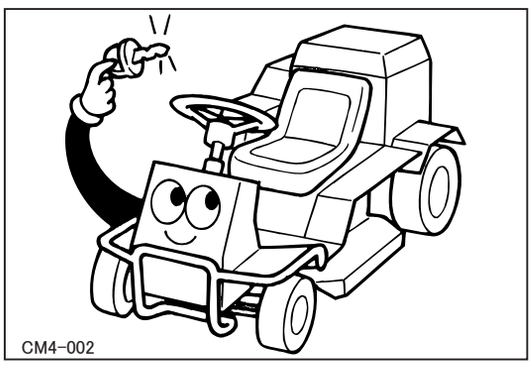
障害物を事前に確認してから作業をしてください。 また、急傾斜および軟弱な路肩、 地面の凹凸等のある区域での作業は危険なため、 作業を行わないでください。

駐車時の心得



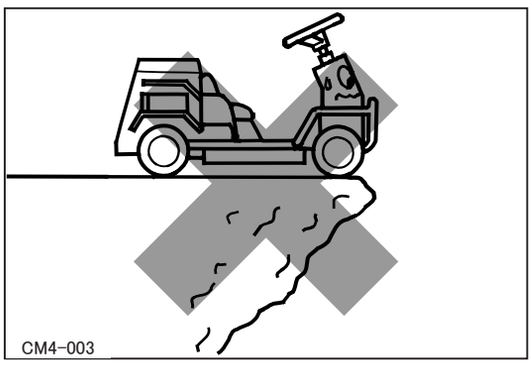
⚠ 坂道での輪止め励行

坂道での駐車は避けてください。 やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。



⚠ 駐車時の安全確認

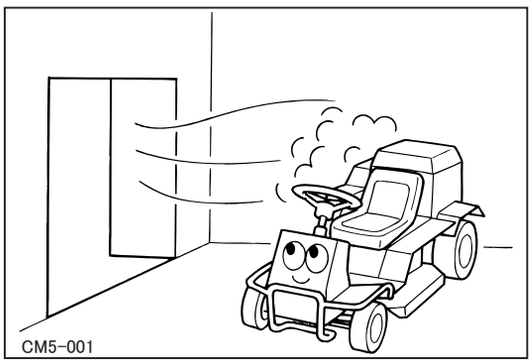
駐車時は、 駐車ブレーキを必ずかけ、 エンジン停止を励行してください。
また、 キーを忘れずに抜いてください。



⚠ 危険な場所での駐停車禁止

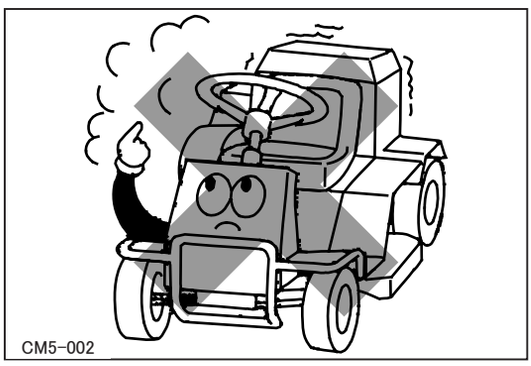
駐車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、 危険な場所での駐停車はしないでください。

整備時の心得



⚠ 換気に注意

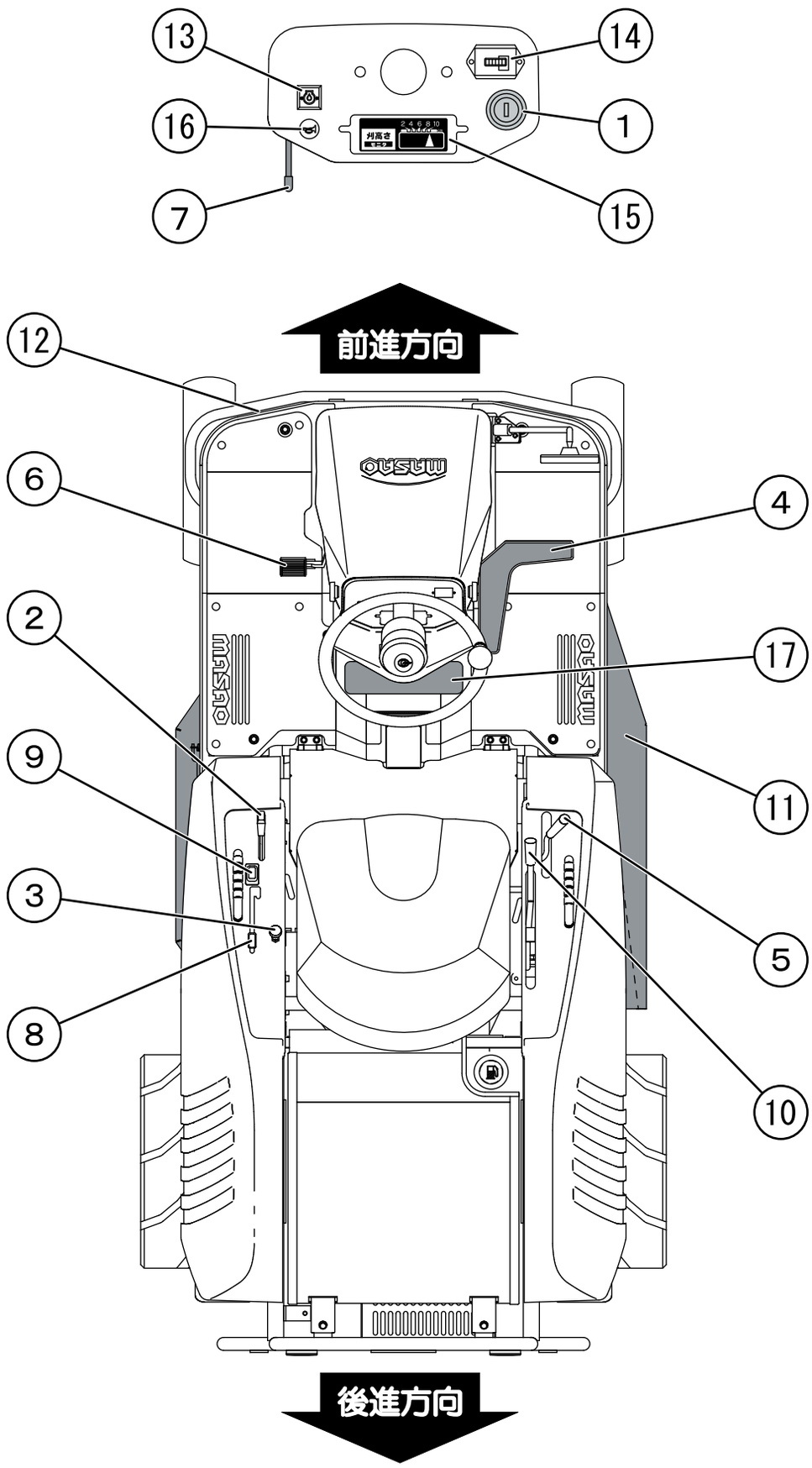
室内でエンジンを運転させる時は、 排気ガスによる中毒防止のため、 換気をよくしてから作業を行ってください。



⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

4. 各部の名称とはたらき



5314M-0400-000

各部の名称とはたらき

① **メインスイッチ** ・・・・・・・・・・・・ エンジンの始動・停止を行います。
※ 使用しないときは必ずキーを抜いて保管して下さい。

② **エンジンコントロールレバー**・・ エンジン回転数の増減を行います。

③ **チョークレバー** ・・・・・・・・・・・・ レバーを引くとチョーク弁が閉じ、 戻すと開きます。 エンジン始動時に引き、 始動後戻します。

④ **HST ペダル** ・・・・・・・・・・・・・・ ペダルを中立より前方へ踏み込むと本製品が前進し、 後方へ踏み込むと後退します。 ペダルを踏み込む角度を調節することで、 走行速度を無段階に調節することができます。

⑤ **副変速レバー** ・・・・・・・・・・・・ 走行速度の高速・低速を切り替えます。

⑥ **ブレーキペダル** ・・・・・・・・・・ 車体を確実に停止させます。

⑦ **駐車ブレーキロックレバー** ・・ 停車時にブレーキペダルを踏み込み、このレバーを手前に引くとブレーキペダルがロックされます。

⑧ **デフロックレバー** ・・・・・・・・・・ 後輪の片方がスリップするときに使用します。
レバーを「入」にするとデフロックの状態、「切」にするとデフロック解除（通常走行）の状態になります。
※通常走行時は必ずレバーを「切」の状態にして使用してください。

⑨ **ロータリ上下調節スイッチ** ・・ 刈刃の高さを調節します。

⑩ **刈刃クラッチレバー** ・・・・・・・・ 刈刃（作業機）の動力を入切するときに使用します。
レバーを「切」の位置にすると連動して刈刃にブレーキがかかります。

⑪ **刈刃カバー** ・・・・・・・・・・・・・・ 作業時に小石や異物の飛散を防ぐカバーです。
刈刃を交換する時にこのカバーを開けると、 刈刃の交換作業が行いやすくなります。

⑫ **前照灯** ・・・・・・・・・・・・・・・・・ メインスイッチを「入」にすると、 自動的に点灯します。

⑬ **エンジンオイル警告灯** ・・・・・・ メインスイッチを「入」にすると点灯し、エンジンを始動させると消灯します。
エンジン回転中にエンジンオイルに異常があると点灯します。

⑭ **アワメータ**・・・・・・・・・・・・・・・ 本製品の稼働時間の累計を 0.1 時間単位で表示します。

⑮ **刈高さモニタ**・・・・・・・・・・・・・ 刈刃の位置 (高さ) をモニタが表示します。

⑯ **ホーンスイッチ** ・・・・・・・・・・・・ スイッチを押すと、 ホーンが鳴ります。

⑰ **消火器**

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注　記

本製品の使用を理解した上で、正しく本製品を使用して下さい。

名称・型式			CM2103
車体質量		kg	415
作業能率		㎡/h	9000
車体寸法	全長	mm	2065
	全幅	mm	1110
	全高	mm	980
	ホイールベース	mm	1460
	トレッド	mm	前輪 810 ・後輪 900
	最低地上高	mm	115
エンジン	名称	-	カワサキ FH641V
	型式	-	空冷 4サイクルガソリン
	シリンダ（内径×行程）	mm	75.2 × 76.0
	総排気量	㎤(cc)	675
	最大出力	kW[ps]/rpm	14.7/3600 (21/3600)
	始動方式		セルフスタータ式
	使用燃料		ガソリン
	燃料タンク容量	ℓ	15
	点火プラグ品番	-	BPR4ES
電装	バッテリ形式	-	40B19R
	バッテリ容量	V/AH	12/28

製品仕様

名称・型式					CM2103
走行性能	走行速度	段数	F（前進）	-	HST（無段変速）
			R（後進）	-	HST（無段変速）
		低速		km/h	0 ～ 6.7
		高速		km/h	0 ～ 10.0
	最大安定傾斜角（無負荷）		左	度	45
			右	度	45
	最小回転半径			m	1.9
	登板能力			度	25
トランスミッション油量				ℓ	2.0
ディファレンシャル（デフ）油量				ℓ	0.36
動力伝達装置	主変速形式			-	HST
	ステアリング装置			-	ラック&ピニオン式 丸ハンドル
	ブレーキ形式			-	内拡式ブレーキ
	タイヤ		前輪	-	4.00-7
			後輪	-	17 × 8.00-8
刈取装置	刈幅			mm	900
	刈高			mm	20 ～ 100 （無段階）
	刈刃形式			-	フリーナイフ & 段付ステー
	刈刃スライド量			mm	150

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書（本書）	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	プラグレンチ	1	
4	メガネレンチ	1	

6. 運転と操作

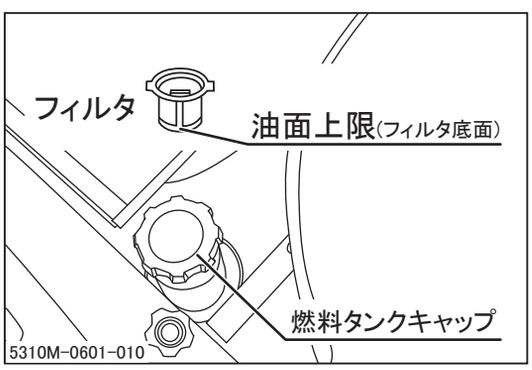
- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」（☞ 6 ページ～ 10 ページ）を必ずお読みください。
- 運転および操作については、 必ず本章の指示に従い、 自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

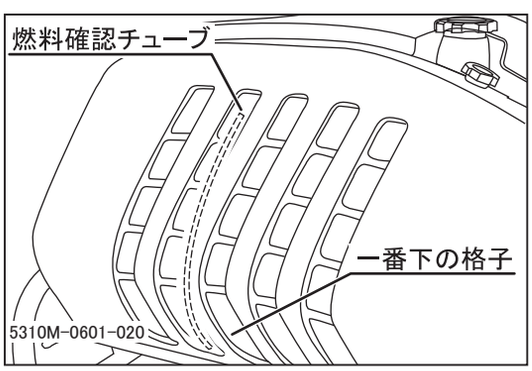
6.1 始動前の準備

6.1.1 燃料の給油

⚠ 危 険

- **給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近づけないでください。 引火の原因となります。**
- **給油は車体が水平な場所に駐車させ、 必ずエンジンを停止した状態で行ってください。**
- **エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、 給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。 燃料がこぼれた際には速やかにふき取ってください。**





1. 燃料確認チューブを目視点検し、 燃料が不足している場合は、 燃料キャップを開け、 燃料を補給します。

   使用燃料 : ガソリン
   燃料タンク容量 : 15 ℓ

   注 記

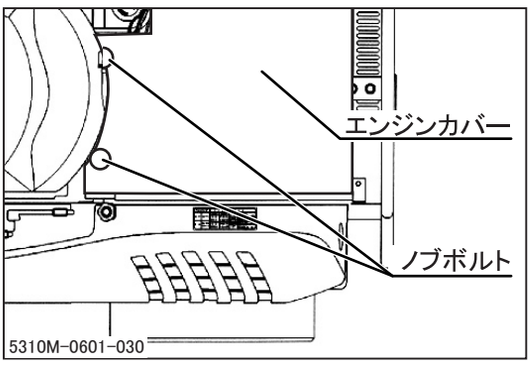
   燃料確認チューブ内の液面が一番下の格子に近付いた場合、 早めに燃料の補給をしてください。

2. 燃料タンクキャップを確実に締めます。

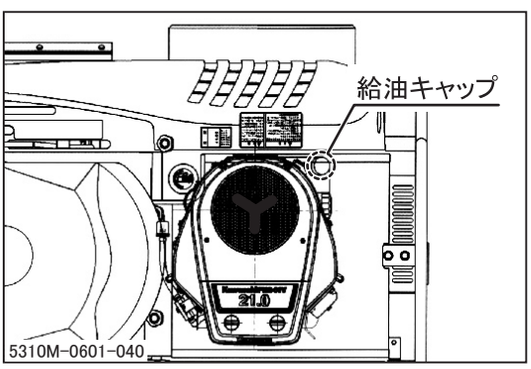
⚠ 注 意

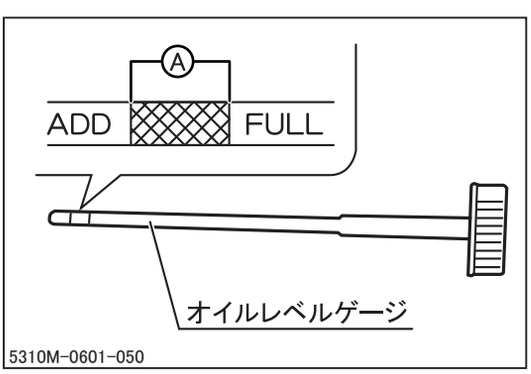
火災の恐れがありますので、 燃料の補給は湯面上限（給油口内フィルタ底面）以下にしてください。

6.1.2　エンジンオイル量の点検と補給



1. ノブボルトを外し、エンジンカバーを開けます。
2. 給油キャップ (オイルレベルゲージ付) を外し、きれいな布で拭いてもう一度、オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込んでから外して点検します。





3. エンジンオイル量を点検し、A の範囲にない場合は、給油口よりエンジンオイルを補給します。

使用オイル：☞ 31 ページ

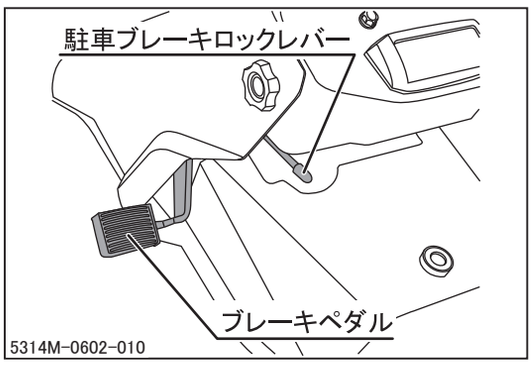
注　記

点検・補給が終わったら、オイルゲージを確実に締め込んでください。

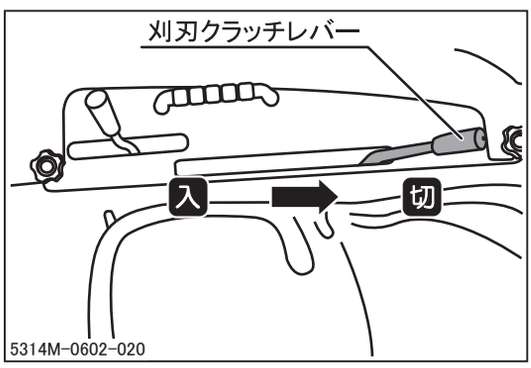
6.2　始動のしかた

⚠ 危　険

エンジンの始動は必ず換気の良い場所で行ってください。



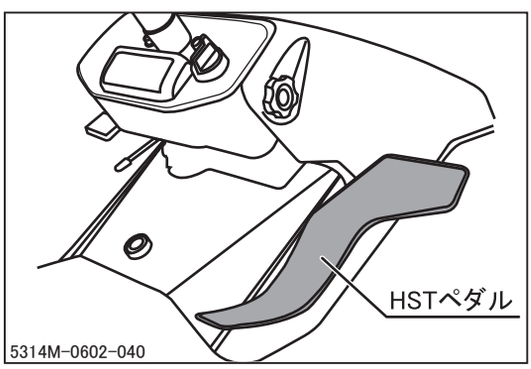
1. ブレーキペダルがロックされていることを確認します。（ロックされていない場合は、ブレーキペダルを踏み込んだ状態で駐車ブレーキレバーを使用してロックさせます。）



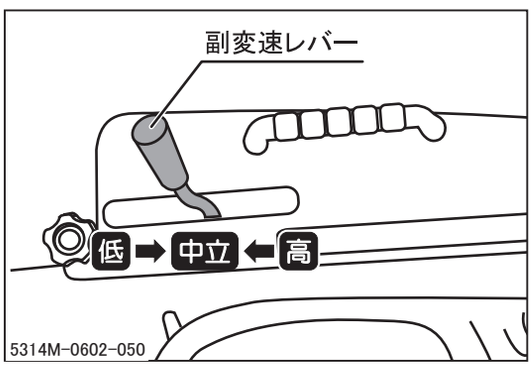
2. 刈刃クラッチレバーが「切」の位置にあることを確認します。

注　記

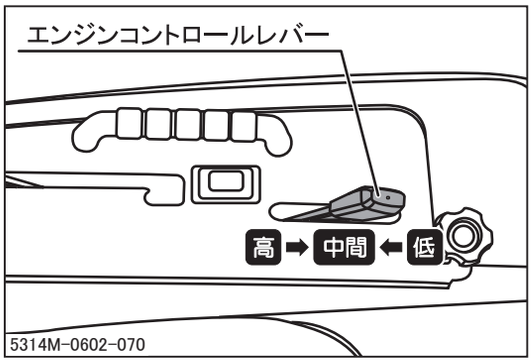
刈刃クラッチレバーが「入」になっていると、安全スイッチが作動し、エンジンは始動できません



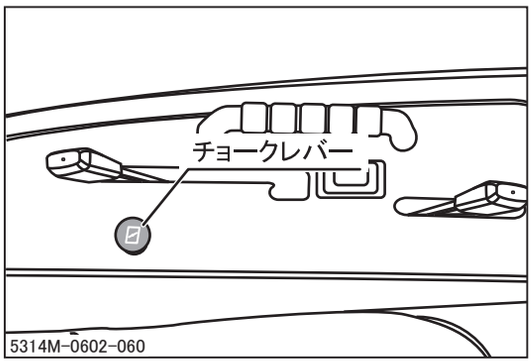
3. HST ペダルから足を離します。



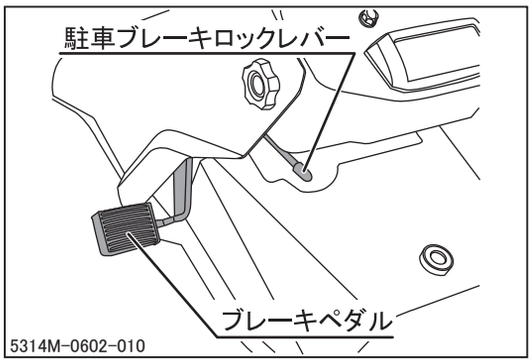
4. 副変速レバーが「中立」の位置になっている事を確認します。



5. エンジンコントロールレバーを「低速」と「高速」の中間位置にします。



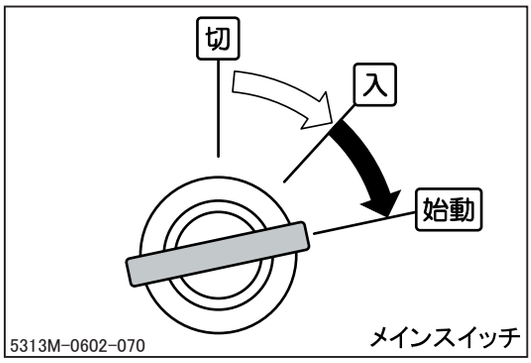
6. エンジンが冷めた状態でエンジンが始動しにくい場合は、 チョークレバーを引きます。



7. ブレーキペダルを踏み込みます。

注　記

座席シートに座り、 ブレーキペダルを踏み込まないと、 安全スイッチが作動し、 エンジンは始動できません。



8. メインスイッチにキーを差し込みます。

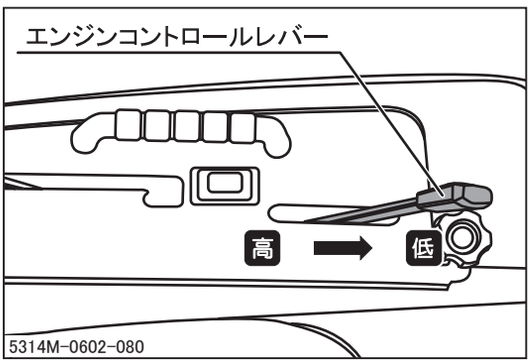
9. メインスイッチを「始動」の位置まで回し、 エンジンを始動させます。メインスイッチにキーを差し込みます。

注　記

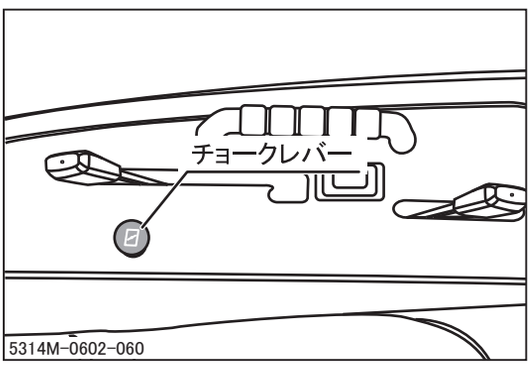
- **スタータモータの寿命を伸ばす為に、 数秒の短い時間で始動させてください。 もし一回で15秒以上回転させた場合は、 1分以上休ませてください。**
- **エンジンを掛け損なった場合、 一旦メインスイッチを「切」にしてから再始動させてください。 急いで再始動させた場合、 スタータを損傷することがあります。**

⚠ 注　意

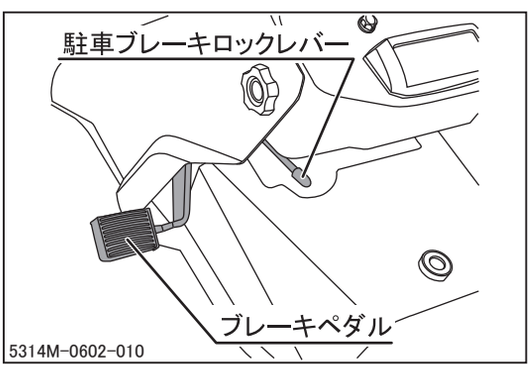
エンジン運転中は、 メインスイッチを「始動」の位置に絶対に回さないでください。 スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。



10. エンジンコントロールレバーを「低速」側に動かします。



11. チョークレバーを使用した場合は、 チョークレバーを押し戻します。



12. 駐車ブレーキロックレバーを使用して、 ブレーキペダルを踏み込んだ位置で固定します。

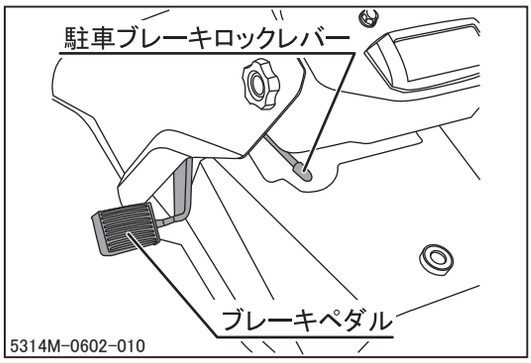
13. 下表を参考にして、 負荷をかけずに暖機運転します。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約 10 分
0 ～ -10℃	10 ～ 20 分
-10 ～ -20℃	20 ～ 30 分
-20℃以下	30 分以上

注　記

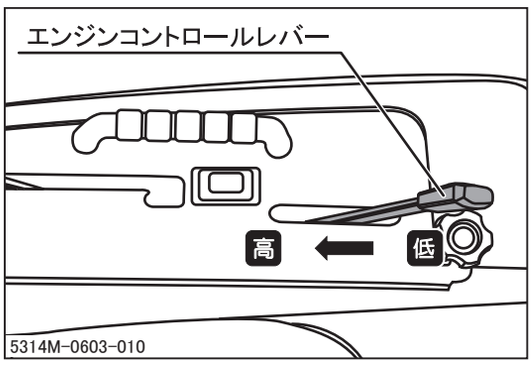
- **暖機運転を十分に行わないと、 エンジンオイルがエンジン内部に行きわたらず焼付き等の原因になる場合があります。**
- **購入後、 最初の一週間 (約 40 ～ 50 時間) は慣らし運転期間として、 過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。**

6.3　運転のしかた

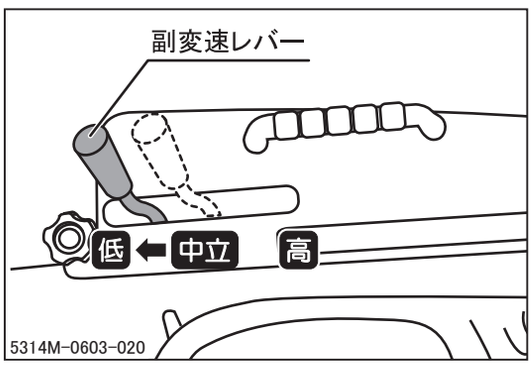


1. 車両の前後・左右の安全を確認します。

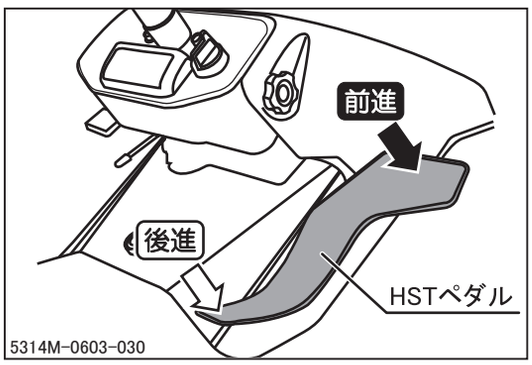
2. 駐車ブレーキロックレバーを解除します。



3. エンジンコントロールレバーを「高速」側へ倒して、エンジンの回転速度を上げます。



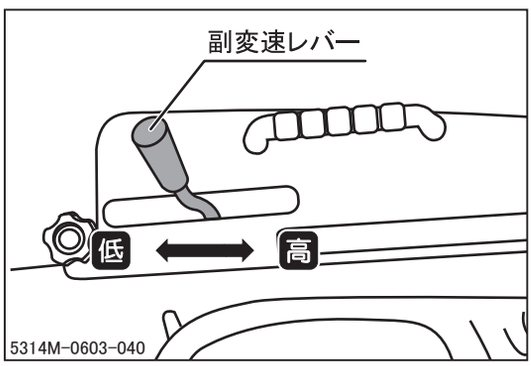
4. 副変速レバーを「低速」へ確実に入れます。



5. HST ペダルをゆっくり踏み込んで、 発進させます。

前進する場合：HST ペダルの前方を踏み込みます。

後進する場合：HST ペダルの後方を踏み込みます。

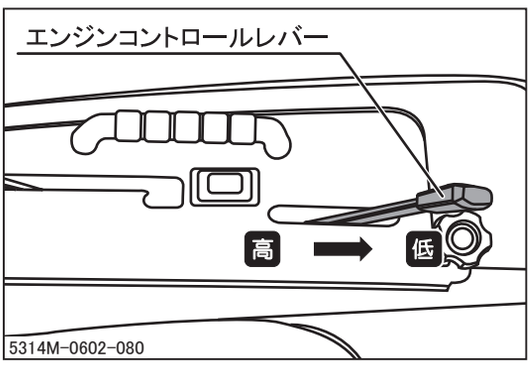


＜変速する場合＞

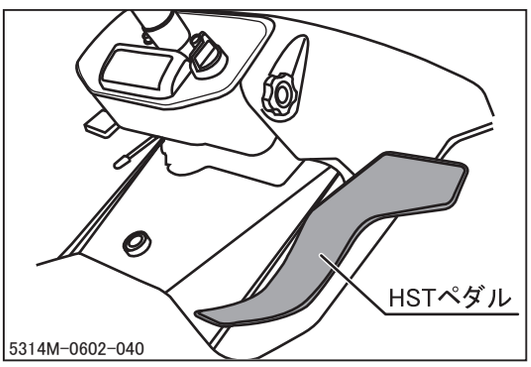
6. 作業条件に合わせて、副変速レバーを「低速」または「高速」へ確実に入れます。

> **⚠ 注　意**
>
> **走行中は変速操作は行わないでください。**

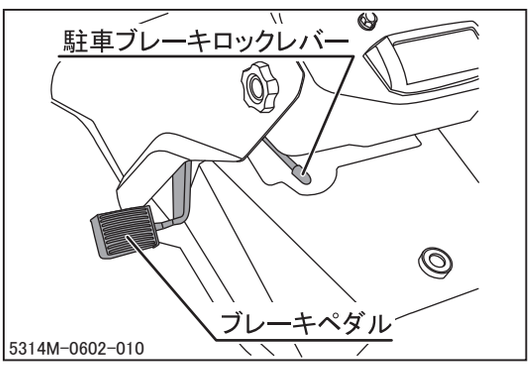
6.4　停止のしかた



1. エンジンコントロールレバーを「低速」側へ動かし、エンジンの回転速度を落とします。



2. HST ペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏み込み車体を停止させます。

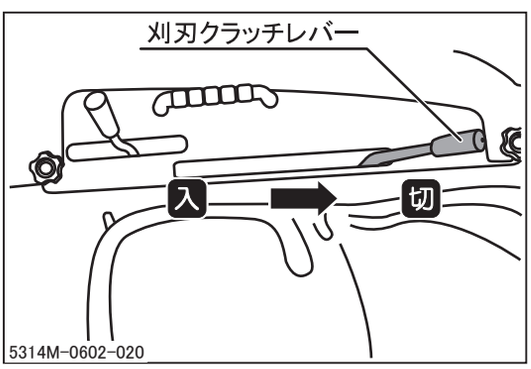


3. ブレーキペダルを踏み込み、車体を確実に停止させます。

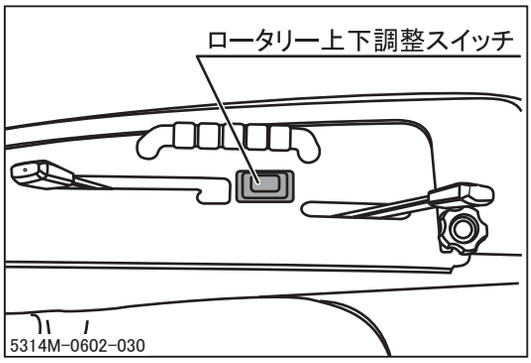
6.5　駐車のしかた

注　記

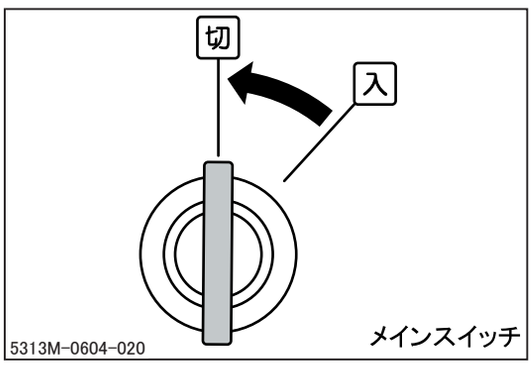
刈刃クラッチを「切」にしても刈刃が惰性で回転している恐れがあります。本製品から離れるときは、刈刃の停止を確認してから降りてください。



1. 車体を確実に停止させます。
2. 刈刃クラッチレバーを「切」にします。



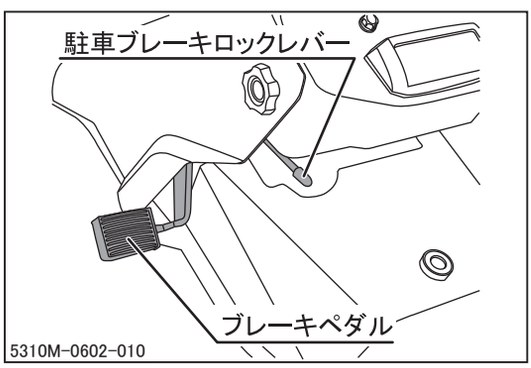
3. ロータリ上下調整スイッチの「高」側を押して、ロータリーを最も上げた状態にします。
（刈高さモニタでロータリ位置を確認します。）



4. エンジンを停止させ、キーを抜き取ります。

注　記

メインスイッチを「入」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリ上がりの原因となります。

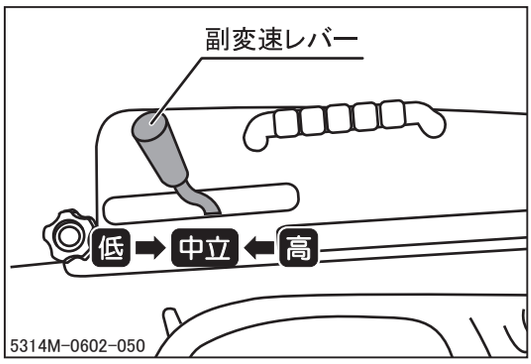


5. ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを使用して、ブレーキペダルをロックさせます。

6.6　緊急時の移動のしかた

注　記

エンジントラブル等により、本製品を通常操作により動かすことが出来なくなった場合には、無理に動かさず下記の手順に従って本製品を移動させてください。

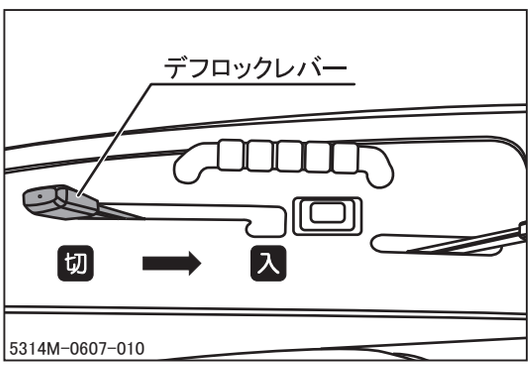


1. 副変速レバーを「中立」の位置にします。
2. ロータリ上下調整スイッチの「高」側を押して、ロータリーを最も上げた状態にします。
（刈高さモニタでロータリ位置を確認します。）
3. 駐車ブレーキロックレバーを解除し、車体を動かします。

6.7　後輪スリップ時の回避操作

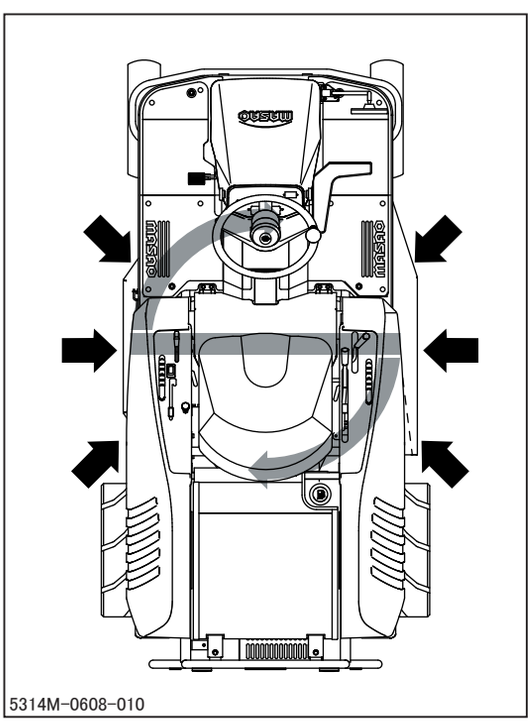
注　記

ぬかるみや急な坂道などでスリップする場合はデフロックレバーを操作して、後輪を左右とも強制駆動することでスリップを回避します。なお通常走行時は、必ずデフロックレバーを「切」の状態にして走行してください。



1. デフロックレバーを「入」の位置にします。
2. 副変速レバーを「低速」に確実に入れ、車両をゆっくり走行させます。
3. ぬかるみ等から脱出したら、デフロックレバーを「切」の位置に戻します。

6.8　作業のしかた

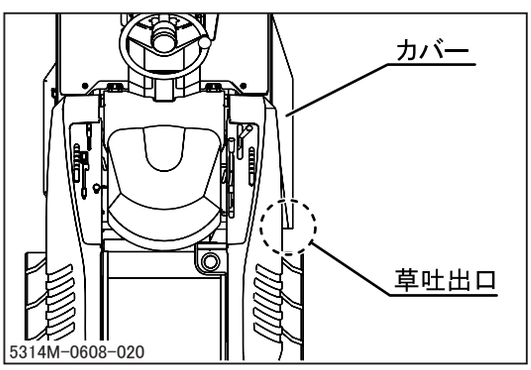


⚠ 危　険

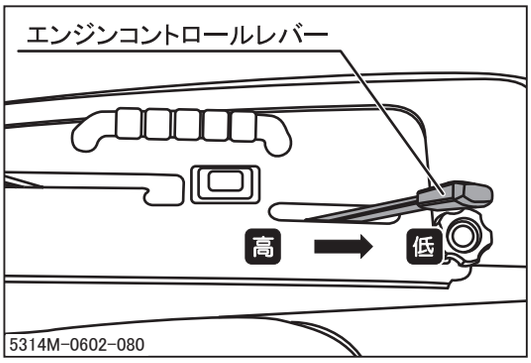
刈刃の回転中は、左右カバー内側まで刃が来るため、絶対に手や足をカバーの下に入れないでください。

注　記

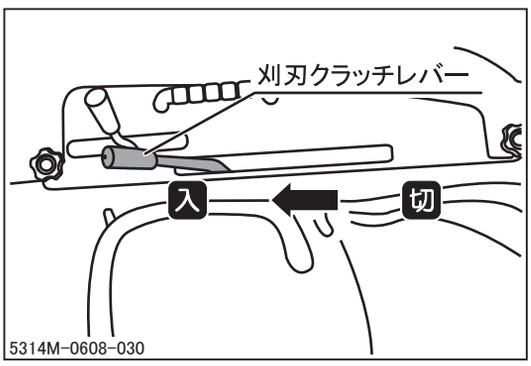
- 初めて本製品を使用するときは平坦地を選び、刈跡が少し重複するようにゆっくりとまっすぐに刈ってください。
- 障害物の回りの枕狩りの時は、木・柱および他の障害物を常に車体の左側に位置させてください。刈刃の回転により、はじいた物が跳ね返ってくる可能性があり危険です。（左旋回して下さい）
- 作業前に第3章「安全運転・作業のための心得」を必ずお読みください。（☞ 6 ～ 10 ページ）



1. 草吐出口のカバーが閉まっていることを確認します。



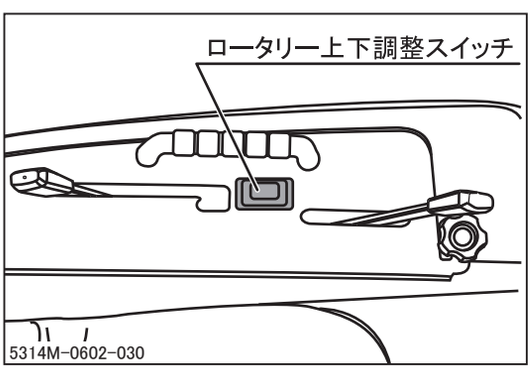
2. エンジンを始動し、エンジンコントロールレバーを「高速」と「低速」の間の位置にします。



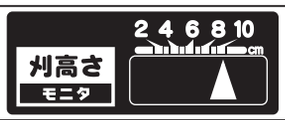
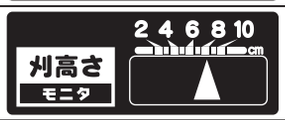
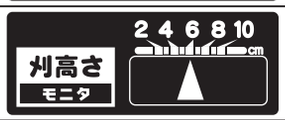
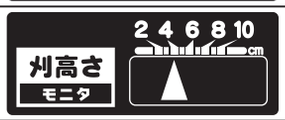
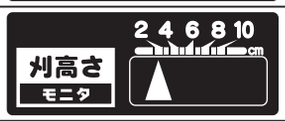
3. 刈刃クラッチレバーをゆっくりと操作し、クラッチ「入」の状態にします。

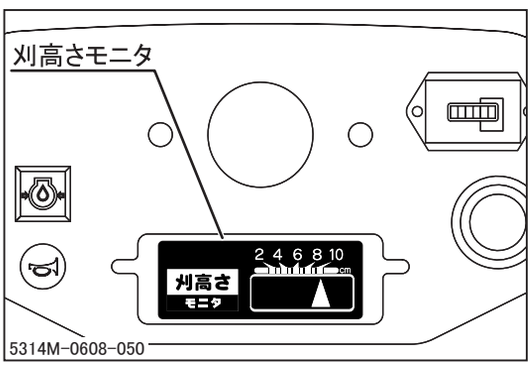
注　記

ロータリの高さが最も高い位置にある場合、刈刃クラッチは「入」の状態になりません。ロータリ上下調整スイッチを操作してロータリを少し下げてから刈刃クラッチ操作を行ってください。

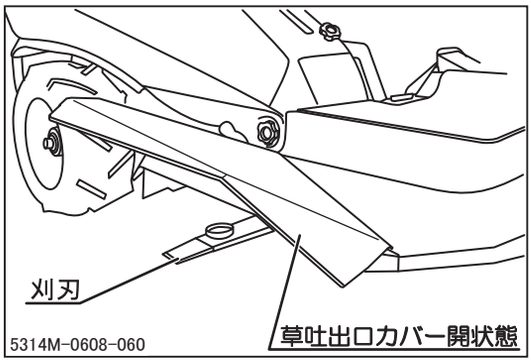


4. 必要に応じて、ロータリ上下調整スイッチを操作して、刈高さを変更します。

刈高さモニタ表示	刈高さ
	10cm
	8cm
	6cm
	4cm
	2cm



5. エンジンコントロールレバーを「高速」側へ動かし、エンジンの回転速度を上げます。
6. 副変速レバーを「低速」の位置に確実に入れ、低速走行で運転して作業を始めます。（作業条件に応じて速度を調整してください。）
7. 作業負荷が大きい（雑草が多い）場合は、速度を落として作業するか、2回刈りを行います。



8. 草の排出が悪い場合、 又は傾斜地作業の場合は周囲の安全が確保された場所で草排出口カバーを少し開けて作業してください。

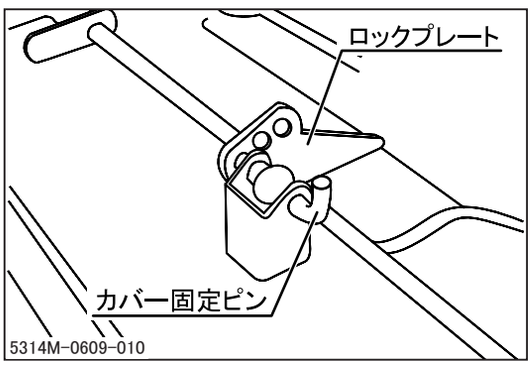
⚠ 警　告

草吐出口カバーを開けると、 周囲に石や異物が飛ぶ場合がありますので、 安全確認を十分行ってください。

⚠ 注　意

草刈作業は、前進方向で行ってください。後進方向での作業は、草の吐出しが悪くなる上、石等の飛散が起こりますので行わないでください。

6.9　草吐出口カバーの開閉のしかた



⚠ 危　険

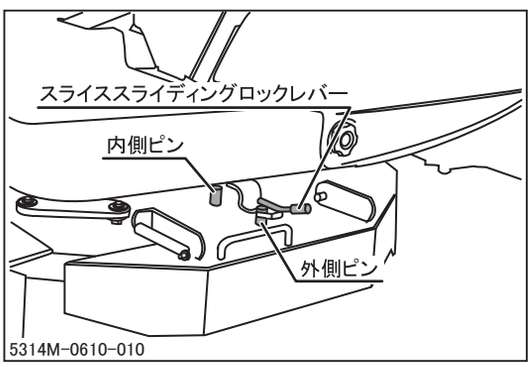
刈刃の回転中は、 草吐出口カバーの開閉をしないでください。

1. 刈刃クラッチレバーを「切」の位置にします。
2. 刈刃の回転が停止している事を確認します。
3. カバー固定ピンを引きます。
4. ロックプレートにある3つの丸穴の何れかににカバー固定ピンを差します。 差した丸穴の位置によってカバーの開度を調整することが出来ます。

6.10　スライススライディング機構の操作のしかた

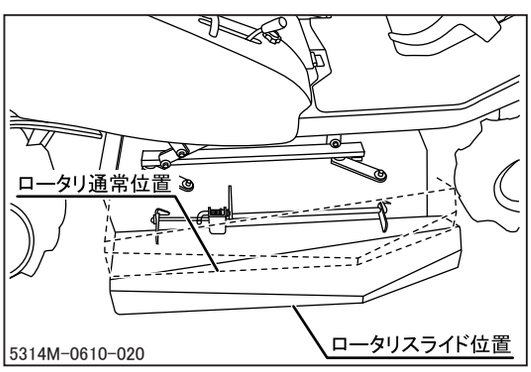
注　記

- 通常作業ではロータリをスライドさせずに使用してください。
- スライススライディング機構は、障害物等により、車両を右側一杯に寄せられない場合でもロータリをスライドさせることにより作業を可能とします。



1. 内側ピンに掛かっているスライススライディングロックレバーを機械後方に回動させ、ピンから外します。

2. グリップを握って、ロータリを機械右側に向かって押し出します。



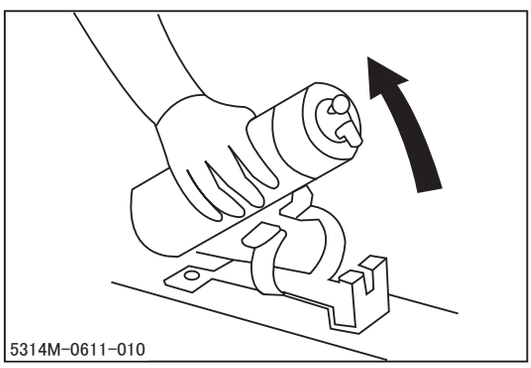
3. スライススライディングロックレバーを外側ピンに掛けて、ロータリをスライド位置に固定します。

6.11　消火器の使い方

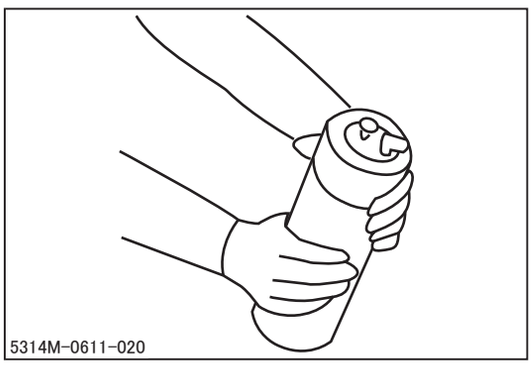
注　記

- 定期的に各部の点検を行い、異常の有無を確かめてください。
- 消火器は絶対に水洗いを行わないでください。

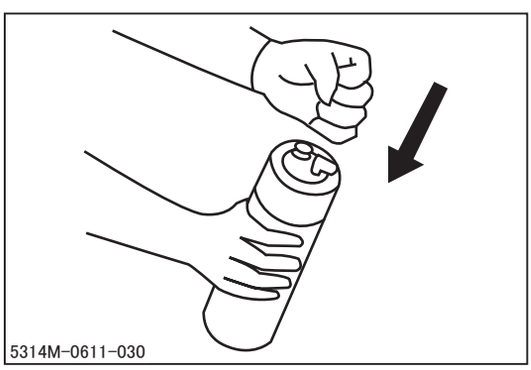
> **⚠ 警　告**
>
> 異常（錆・傷・変形）のあるものは、絶対に使用しないでください。
> 本体容器の破損により人身事故発生の恐れがあります。



1. 消火器をブラケットより取り外します。



2. ノズルを火元に向けます。



3. 頭部の押しボタンを強く叩くと消火剤が出ます。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

- 点検や整備を怠ると事故の原因となる事があります。 本製品の正常な機能を維持し、 いつも安全な状態で運転または作業をするために、 下表を参考に点検を行ってください。
- 年次点検は1年に1回、 月例点検は1ヶ月に１回、 始業点検は作業を開始する前に毎日、 点検を行うようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、 専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。 ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（ 当社センター ）へ依頼してください。

項目			点検内容		点検時期			備考
					始業	月例	年次	
原動機	本体	始動性	・エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる	始動が容易で、 異音がないこと。	○	○	○	
		回転の状態	・アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。 また、 回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。 回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
			・エンジンを加速したとき、 スロットルレバーの引っかかり、 エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っかかり、 エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
		排気の状態	・エンジンを十分に暖機した状態で、 アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
			・排気管、 マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れのないこと。		○	○	
		エアクリーナ	・ケースの亀裂、 変形およびふた部、 接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂、 変形またはふた、 接続管に緩みがないこと。		○	○	
			・ウレタンフォーム・ペーパーエレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。	○	○	○	清掃 / 交換 ☞ 38 ページ
		締付け	・シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 ＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、 この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	
		弁隙間	・弁隙間を調べる。 ＊弁隙間の異常による異音がなく、 エンジンが円滑に回転している場合は、 この検査を省略してもよい。	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		圧縮圧力	・圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	・エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			・取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	

保守（お手入れ）

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	潤滑装置		・油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検 / 交換 ☞ 33 ページ
			・ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置		・燃料タンク、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			・燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			・フューエルフィルタの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	
	電気装置	点火プラグ	・電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検 / 清掃 ☞ 39 ページ
		バッテリ	・電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検 / 補給 ☞ 37 ページ
			・端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配線	・接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			・配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
動力伝達装置	Vベルト		・外観の損傷および汚れの有無を調べる。	損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検 ☞ 41 ページ
			・Vベルトの張りについて調べる。	適正な張りであること。		○	○	
	トランスミッション		・前進および後進状態にして走行し、作動状態、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
			・ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検 / 交換 ☞ 34 ページ
			・油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検 / 交換 ☞ 34 ページ
			・ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
変速装置	変速レバー		・走行して変速レバーを操作したとき、各変速位置に確実に入り、作動が適正であることを調べる。	各変速位置に確実に入り、作動が適正であること。	○	○	○	
			・レバー取付け部に緩みまたはガタがないか調べる。	緩みまたはガタがないこと。	○	○	○	
	HSTペダル		・走行してHSTペダルを操作したとき、作動が適正であることを調べる。	作動が適正であること。	○	○	○	
			・ペダル取付け部に緩みまたはガタがないか調べる。	緩みまたはガタがないこと。	○	○	○	
走行装置	ハンドル（ステアリングホイール）		・走行してハンドルを左右に回して、ハンドルが確実に切れるか調べる。	確実に切れること。	○	○	○	
	タイヤ・ホイール		・タイヤの空気圧および溝の深さを調べる。	基準値内であること。		○	○	点検 ☞ 43 ページ
			・タイヤ、ホイールの亀裂、損傷および偏摩耗の有無を調べる。	亀裂、損傷、偏摩耗がないこと。	○	○	○	
			・タイヤの溝に金属片、石、その他の異物のかみ込みがないか調べる。	かみ込みがないこと。	○	○	○	
			・ホイールボルト、ハブナットの緩み、脱落の有無を調べる。	緩み、脱落のないこと。	○	○	○	
			・ホイールベアリング部のガタ、異音および異常発熱の有無を調べる。	ガタ、異音、異常発熱がないこと。		○	○	

保守（お手入れ）

項目		点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
制動装置	ブレーキ	・走行させてブレーキの効き具合を調べる。	効き具合が適正であること。		○	○	
		・ブレーキペダルの遊びが適切であるか調べる。	遊びが適切であること。		○	○	調整 ☞ 43 ページ
	ロッド・リンク ワイヤ類	・ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
車体	車体カバー	・車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。	亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落のないこと。		○	○	
灯火装置	前照灯	・エンジンを始動して、正常に点灯するか調べる。	正常に点灯すること。	○	○	○	
		・レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。	破損および水等の浸入がないこと。		○	○	
ロータリ	刈刃	・刈刃に損傷、磨耗、ガタ、がないか調べる。	破損、磨耗、ガタがないこと。	○			
	スライド	・ロックレバーでスライドが固定されているか、ガタがないか調べる。	スライドが固定されていて、ガタがないこと。	○			
	カバー	・カバーに損傷がないか、またスムーズに開閉するか調べる。	破損がないこと。 スムーズに開閉すること。	○			
消火器	－	・本体容器に錆、腐食、変形がないか調べる。	・錆、腐食、変形ないこと。	○	○	○	
ホーン	－	・キースイッチを ON にして、正常に動作するか調べる。	・正常に動作すること。			○	

7.2　給油・給脂・注油・給水一覧表

項　　目	補給（交換）時期	推　　奨　　品	容　量	参照ページ
燃　　料	随　時	自動車用無鉛ガソリン	15.0 ℓ	☞ 15 ページ
エンジンオイル	**（補給）** 毎日点検し、不足時に補給 **（交換）** 初回：8 時間 2 回目以降：50時間毎	API 分類　SE クラス以上 #20 ～ #30 または SAE 分類　10W-30	1.5 ℓ	☞ 33 ページ
トランスミッションオイル	初回：50 時間 2 回目以降：500 時間毎	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類　#80	2.0 ℓ	☞ 34 ページ
ＨＳＴオイル		エンジンオイル SAE 分類　20W-50	3.0 ℓ	☞ 35 ページ
刈刃カウンターケースオイル	－	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類　#80	0.39 ℓ	
刈刃上部ケースオイル	－	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類　#80	0.83 ℓ	
フロントデフオイル（センター）	－	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類　#80	0.36 ℓ	☞ 34 ページ
フロントナックルオイル（両サイド）	－	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類　#80	各 0.05 ℓ	☞ 34 ページ
各注油箇所	6ヶ月毎 ＊購入後半年は注油不要	ギヤオイル API 分類 GL 4 または 5 SAE 分類　#80	－	☞ 36 ページ
各給脂箇所	6ヶ月毎 ＊購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	－	☞ 36 ページ
バッテリ液	毎月点検 ＊不足時に補給	蒸留水	－	☞ 37 ページ

7.3　消耗部品（交換部品）一覧表

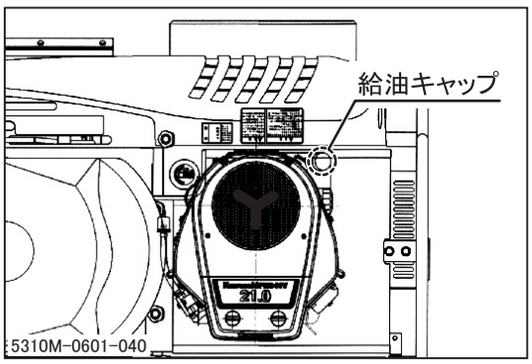
項目			部品番号	交換時期	個数	参照ページ
エンジン		ペーパーカートリッジ	-	50 時間毎（毎週）に点検し、不具合があれば交換	1	☞ 38 ページ
		フォームエレメント	-		1	☞ 38 ページ
		オイルフィルタ	-		1	☞ 43 ページ
		燃料フィルタ	-		1	☞ 40 ページ
Vベルト		走行	0852 1300 040	不具合があれば交換	1	交換については販売店へ依頼してください。
		ロータリ	0858 1300 035		1	
ブレーキシュー			7207 2157 100		1 セット（セットで交換）	
バッテリ			3705 3901 000		1	☞ 37 ページ
タイヤ	タイヤ ASSY	前輪（右）	5314 2201 000		1	交換については販売店へ依頼してください。
		前輪（左）	5314 2205 000		1	
		後輪（右）	5314 2301 000		1	
		後輪（左）	5314 2302 000		1	
HST タンク		エレメント ASSY	5310 2053 100	HST オイル交換毎に交換	1	☞ 44 ページ
燃料ホース（燃料タンク - 燃料ポンプ）			5310 0344 000	3 年毎または不具合発見時	2	-
ワイヤ類	スロットルワイヤ		5310 0102 000	不具合があれば交換	1	-
	チョークワイヤ		5310 0105 000		1	-
	刈刃クラッチワイヤ		5310 2406 000		1	-
	ブレーキワイヤ		5310 3315 000		1	-
	デフロックワイヤ		5310 3402 000		1	-
	モニタ用ワイヤ		5310 4085 000		1	-
	刈刃ブレーキワイヤ		5310 4306 000		1	-
刈刃	刈刃ステー		5304 4201 000		1	-
	刈刃セット		5309 6201 000		2	☞ 44 ページ
	ボルトセット		5310 9906 000		2	☞ 44 ページ
	ブレーキレバー		5310 4301 000		1	
上記以外で点検上交換が必要と思われる部品については、販売店または当社センターまでお問い合わせください。						

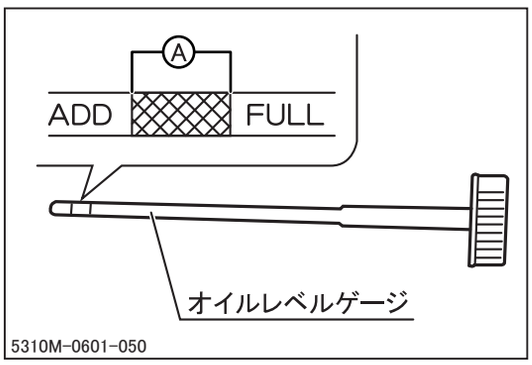
7.4　給油

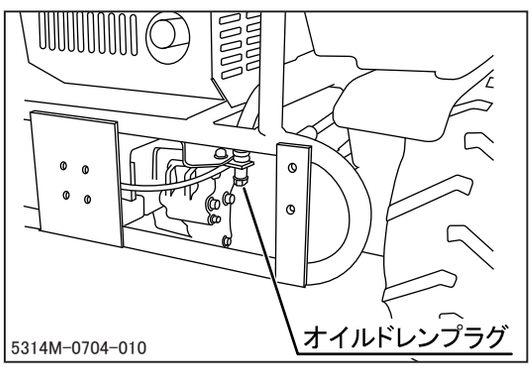
注　記

- 必ずエンジンを停止してから点検および交換を行ってください。
- 給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりではなく、故障の原因となり、機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。

7.4.1　エンジンオイル







（点検 / 補給）

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油キャップ（オイルレベルゲージ付）を引き抜きます

注　記

オイル量はエンジン始動前か、エンジン停止後約 10 分以上経過してから点検してください。エンジン停止直後は、エンジン各部にオイルが残留しているため、正確なオイル量が点検できません。

4. オイルレベルゲージにてエンジンオイル量を目視点検し、A の範囲内にない場合は、エンジンオイルを補給します。
5. エンジンオイルの汚れを目視点検し、汚れがひどい場合はエンジンオイルを交換します。
   使用オイル：☞ 31 ページ
   エンジンオイル量：
   オイルゲージを差し込んだ状態で A の範囲内
6. 給油キャップを取り付けます。

（交　換）

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. オイルドレンプラグを暖め、クランクケース内のオイルを排出します。

⚠ 注　意

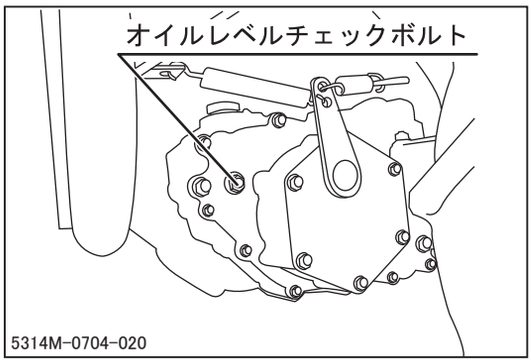
オイル高温度時にはやけどのおそれがあります。

注　記

廃油は適切な処置をしてください

3. オイルドレンプラグを締め付けます。
4. 給油キャップを取外し、給油口より指定のオイルを適量注入して、給油を締込みます。

7.4.2　トランスミッションオイル

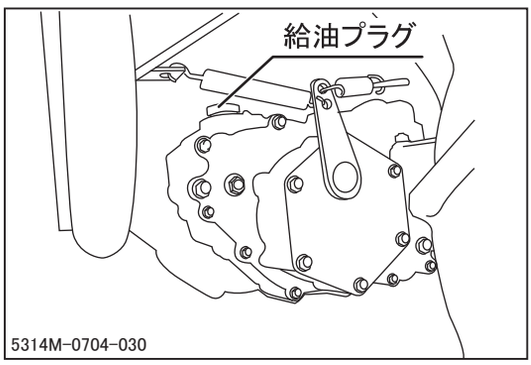


（点　検）

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. オイルレベルチェックボルトを取外し、 オイルがそのボルト穴から出るかチェックします。（チェックボルト穴までオイルが達しているかチェックします）

オイル量：☞ 31 ページ

（オイルレベルチェックボルト穴にオイルが達するまで）



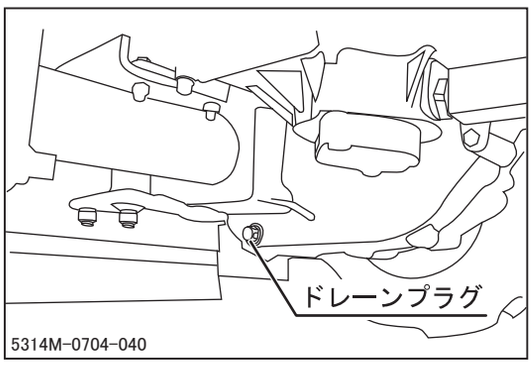
（補　給）

1. 給油プラグを取外します。
2. 給油口より指定のオイルを注入します。

使用オイル：☞ 31 ページ

（交　換）

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、 オイルを抜取ります。



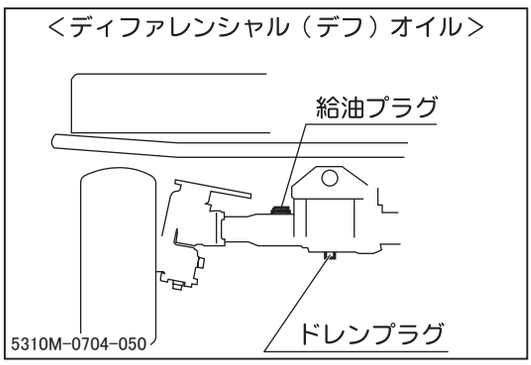
> **⚠ 注　意**
>
> **オイル高温時にはやけどのおそれがあります。**

注　記

廃油は適切な処置をしてください

3. ドレーンプラグを取付します。
4. 給油プラグを開け、 指定のオイルを注入します。

7.4.3　ディファレンシャル（デフ）オイル、 ナックルオイル

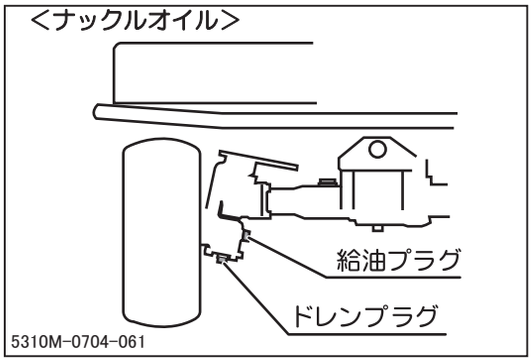


（点　検）

1. 給油プラグを取外します。
2. オイル量および汚れについて目視点検し、 オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、 補給または交換します。

使用オイル：☞ 31 ページ

3. 給油プラグを取り付けます。



（交　換）

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取外し、 オイルを抜取ります

   参考：

   給油プラグを取外すとオイルが抜取りやすくなります。

⚠ 注　意

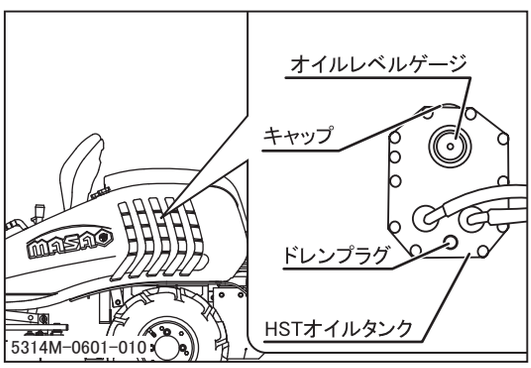
オイル高温時にはやけどのおそれがあります。

注　　記

廃油は適切な処置をしてください

3. ドレンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、 指定のオイルを注入します。

7.4.4　　HST オイル



（点検 / 補給）

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 給油栓を外して、 HST オイルタンクの HST オイル量を点検し、 規定量にない場合は、 オイルタンクのキャップを開け、 HST オイルをオイルレベルゲージのセンターまで補給します。

   使用オイル量：☞ 31 ページ

   HST オイル量：

   オイルが十分冷えた状態でオイルレベルゲージのセンターまで補給します。

注　　記

オイルを入れすぎると、 オイルがキャップより あふれることがあります。

（交換）

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取外し、 オイルを抜取ります。

注　　記

廃油は適切な処置をしてください

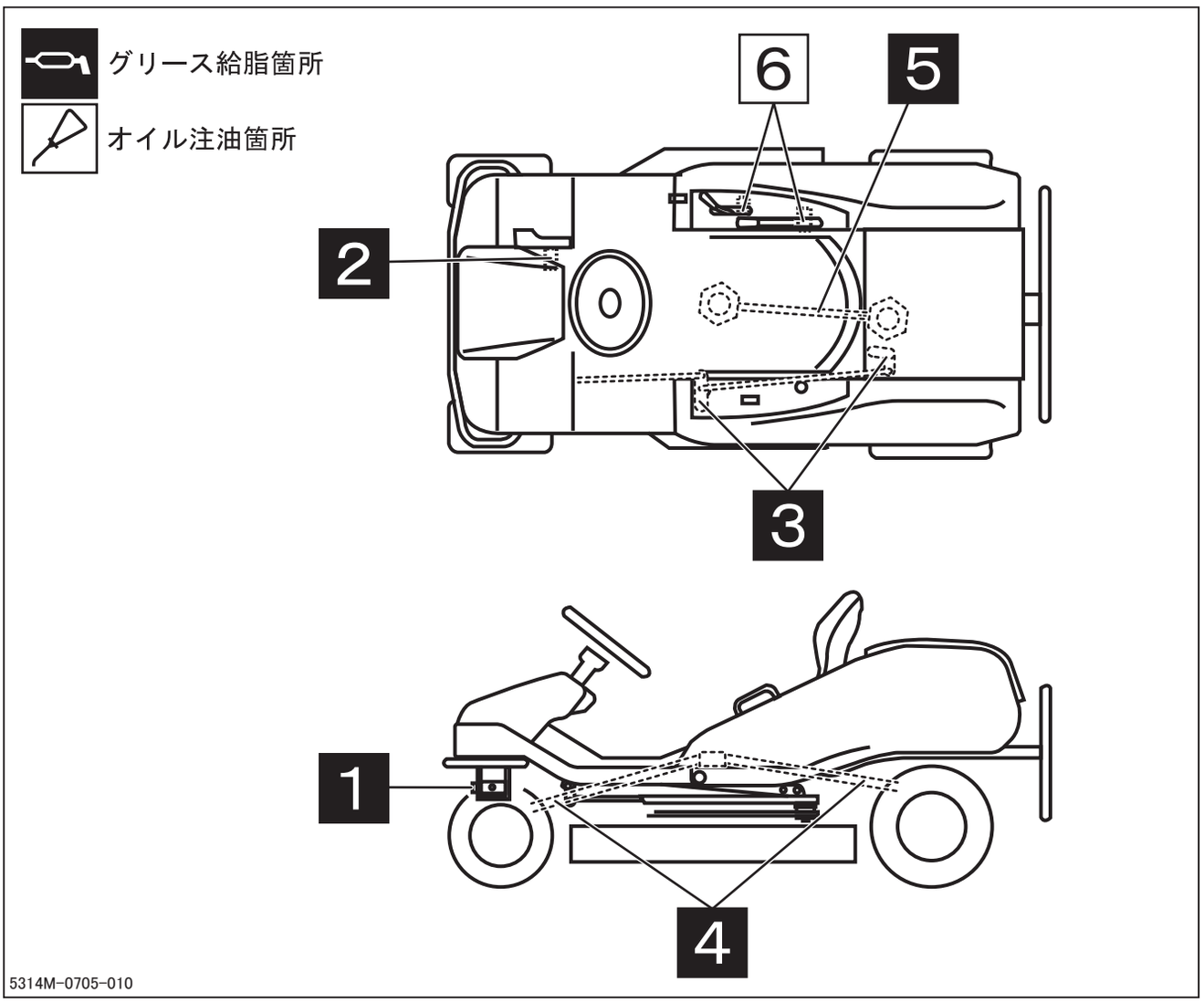
3. ドレンプラグを取付けます。
4. キャップを開け、 指定のオイルを適量注入します。

7.5　給脂・注油

注　記

給脂および注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行われなくなりますので、定期的に給脂および注油を行ってください

図示箇所に給脂・注油します　**使用オイル**：☞ 31 ページ



No.	給　脂・　注　油　箇　所	箇所数	種　　類
1	前車軸取付けピン	1	グリース給脂
2	HST ペダル支点	1	
3	ステアリングロッド支点（4WS）	2	
4	ドライブシャフト（4WD）	2	
5	刈刃ドライブシャフト	1	
6	副変速レバー・刈刃クラッチ支点	2	オイル注油

参考：手動式グリースポンプを使用の場合は 5 ～ 6 回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに中止してください。エア式のポンプ使用の場合は 2 ～ 3 秒で十分です。

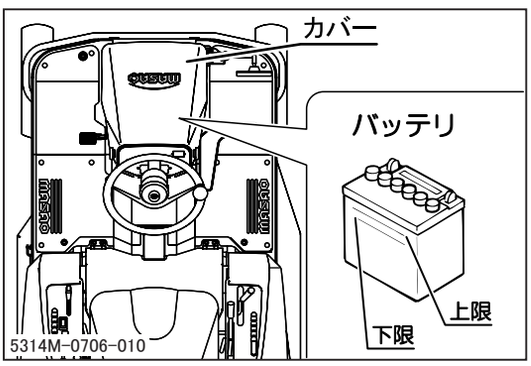
7.6　給水（バッテリ液）

⚠ 危　険

バッテリから発生するガスは引火性があるため、バッテリに火気（タバコの火等）を絶対に近付けないでください。爆発する恐れがあります。

⚠ 注　意

- バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置するとバッテリ液（希硫酸）によって、やけどすることがあります。
- バッテリの点検および取外しのときには、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。



（点検 / 補充）

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリ液の量を目視点検し、不足している場合は前方のカバーを取外し、バッテリキャップを取外し、バッテリ液を補充します。

   バッテリ液量：基準線（上および下）の間

   バッテリ液：蒸留水

（充　電）

バッテリを取り外し、使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従って充電を行ってください。

⚠ 注　意

- バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の負傷の他に敗戦などを痛めることがあります。
- バッテリコードを接続するときは、（＋）と（－）を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリが充電できなくなります。
- バッテリからコードを外す時は（－）側、取付けるときは（＋）側から行ってください。逆にすると、工具があたって場合にはショートします。
- バッテリを取外し、再度取付けるときにはバッテリの（＋）、（－）のコードを元どおり配線し、周りに接触しないように締め付けてください。

注　記

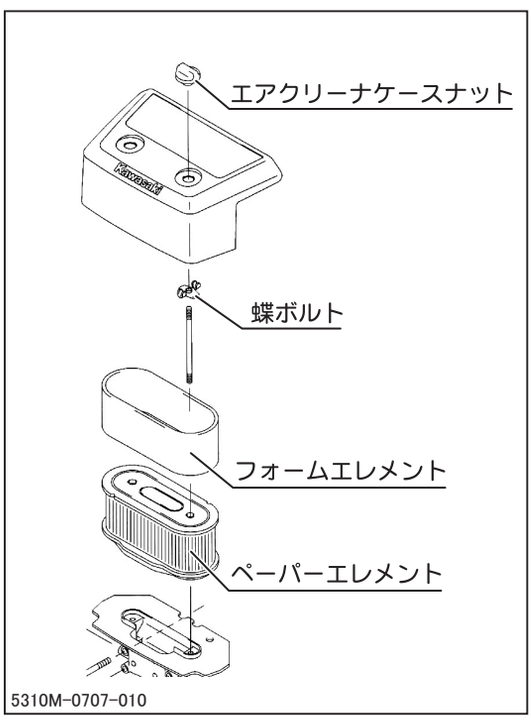
急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急適所として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリの寿命は極端に短くなります。

7.7　清掃

7.7.1　エアクリーナ

注　記

- エアクリーナの汚れがひどくなると、 エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起すため、定期的（25時間運転毎）に清掃するように心掛けてください。
- エアクリーナは乾式タイプを使用していますので、 オイルを使用しないでください。 また、 圧縮空気を使用して、 きれいにしたり、 乾燥させないでください
- エアクリーナを破ったり、 変形させないよう慎重に扱ってください。



（清掃）

1. エアクリーナケースナットを取り外し、 カバーを取り外します。
2. 蝶ボルトを外し、 エレメントを取外します。
   フォームエレメントは、 洗剤と水を入れた槽の中で洗浄し、 その後圧搾空気を当てるか、 振って乾かしてください。 その後、 きれいなエンジンオイルをしみ込ませ、 余分なオイルを絞ってできるだけ乾かします。
   ペーパーエレメントは平らな床で軽く叩き、 ホコリをおとします。 汚れが著しい場合や破損している場合は、新品と交換してください。

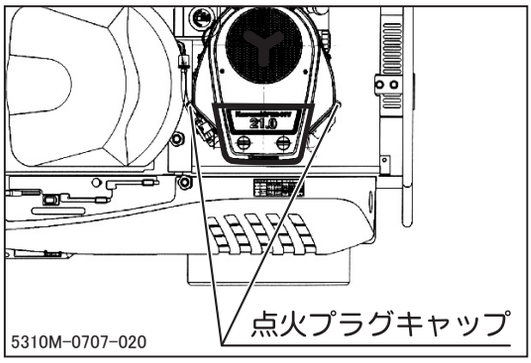
注　記

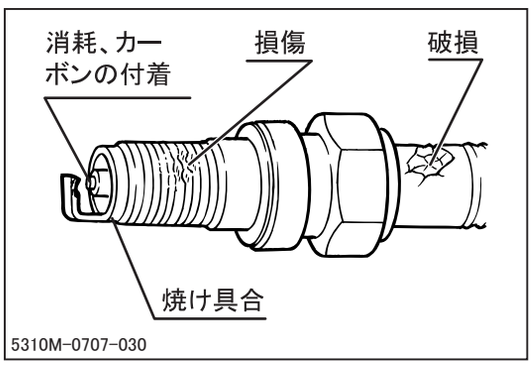
カートリッジ（エレメント）は平らな床で軽く叩いてホコリを落とします。 オイルは絶対に含ませないでください。

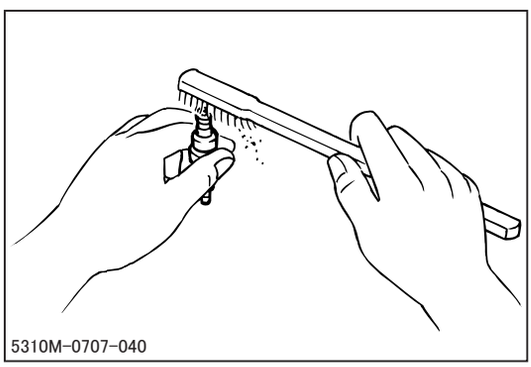
4. ペーパーエレメントにフォームエレメントをセットし蝶ボルトにて本体に取付けます。
6. エアクリーナケースを取付けます。

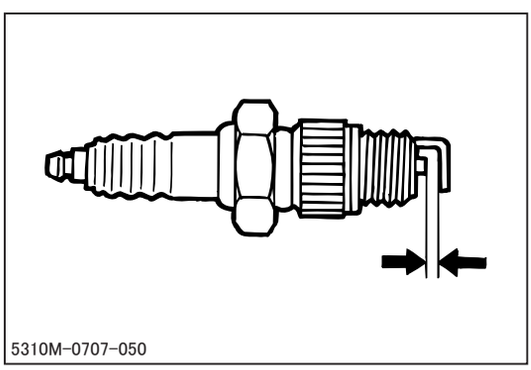
エアクリーナのフォームエレメントは 25 時間毎に、ペーパーエレメントは50時間毎に点検清掃し、 不具合があれば交換してください。

7.7.2　　点火プラグ









（点検）

1. 点火プラグキャップを取外します。

注　　記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。

2. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。
3. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの仕様：☞ 13 ページ）
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの推積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合

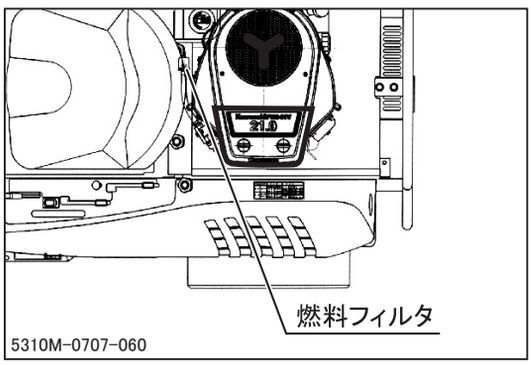
清掃

1. ワイヤブラシ、プラグクリーナで点火プラグを清掃します。

2. 電極（火花）隙間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。
   標準値：0.75 mm

3. 点火プラグを取付けます。

7.7.3　　燃料フィルタ



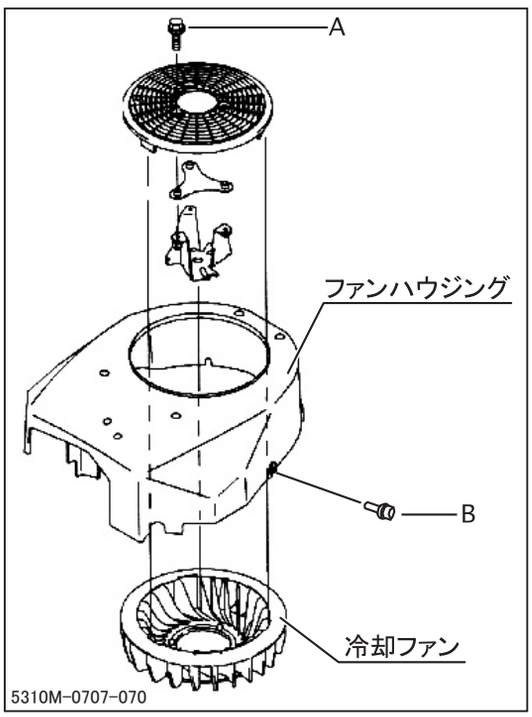
（清　掃）

目視でフィルタが黒くなっていないか点検してください。
通常は薄い茶色です。

注　　記

- 燃料フィルタが黒くなってそのままにしておくと、 燃料がエンジンに届かなくなって、 エンジンが停止する恐れがあります。
- 燃料フィルタは燃料ホースに直接つながっています。 火災の危険性がありますので、 ご自分で交換しないでください。「お買い上げ先」にご依頼ください。

7.7.4　　ファンハウジングと冷却ファン



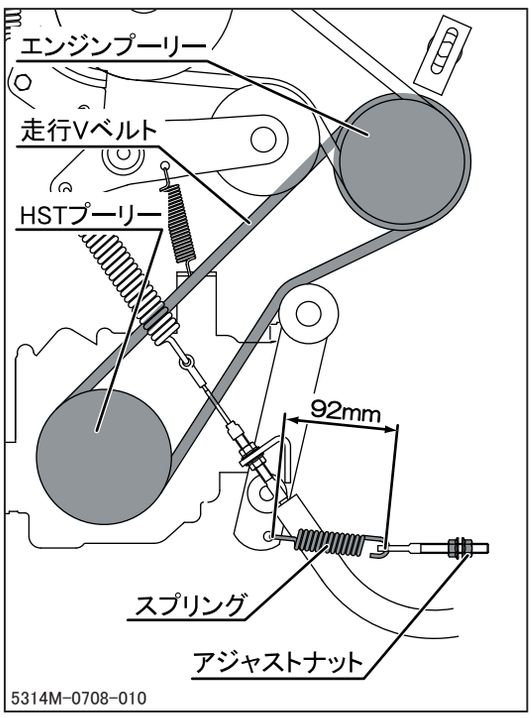
⚠ 注　意

- ファンハウジングおよび冷却ファンの清掃は、 必ずエンジンを停止させて作業を行ってください。
- ファンハウジングはエンジンが冷えてから取外してください。

1. エアクリーナカバーとファンカバー取付けボルト A を取外し、 ファンカバーを取外します。
   (エアクリーナカバー取外し：☞ 38 ページ)
2. 冷却ファンにゴミやホコリが詰まっていないか点検し、詰まっている場合は圧縮空気で清掃します。

7.8　調整

7.8.1　走行 V ベルト



（点　検）

V ベルトに損傷がないか目視点検します。 損傷がある場合は交換します。

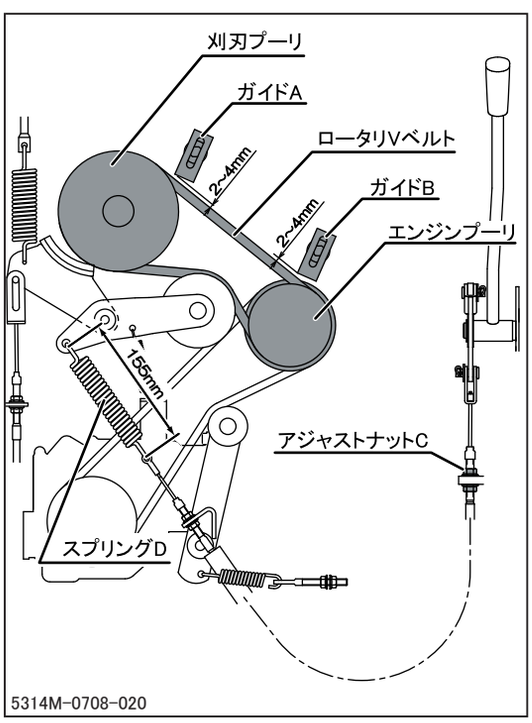
（調　整）

注　記

走行 V ベルトは張ったままです。 走行中 V ベルトがすべる場合のみ調整してください。

スプリング長が 92mm になるように、 アジャストナットを調整します。

7.8.2　刈刃ロータリ V ベルト



（点　検）

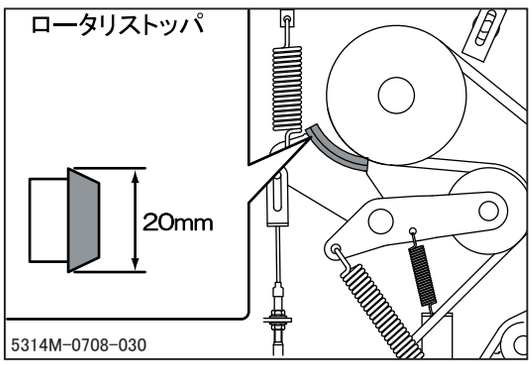
V ベルトに損傷がないか目視点検します。 損傷がある場合には交換します。

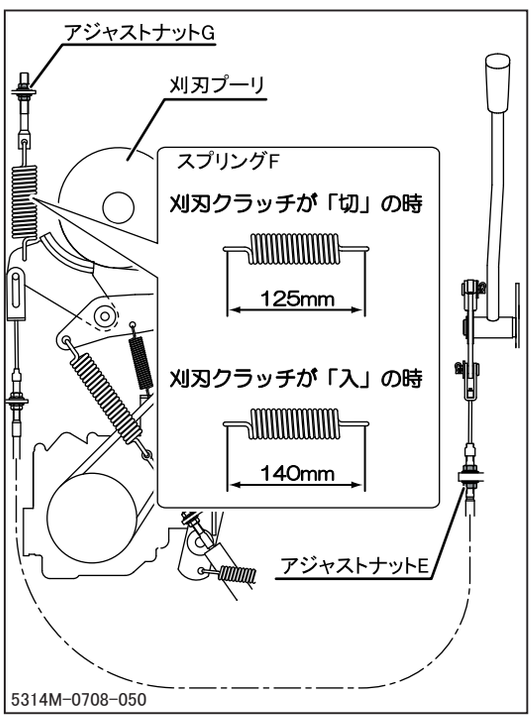
（調　整）

V ベルトを交換したときは以下の要領で調整してください。

1. VベルトとガイドA、Bのすきまを2～4mmにセットします。
2. 刈刃クラッチレバーを「入」の位置にした時、スプリング D の長さが 155mm なるようにアジャストナット C を調整します。

7.8.3　ロータリストッパ





（点　検）

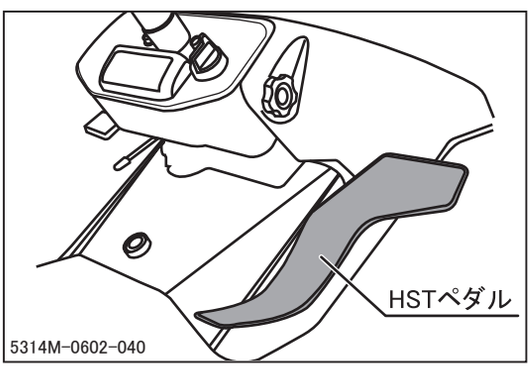
刈刃クラッチレバーをクラッチ「切」にして刈刃が約4秒で停止するか点検します。 停止しない場合は、ライニングの磨耗を点検します。 20ｍｍ以下の場合は、販売店へ交換を依頼してください。

（調　整）

刈刃クラッチレバーをクラッチ「切」にして刈刃が約4秒で停止しない場合や、ロータリストッパを交換した場合は以下の要領で調整してください。

1. エンジンが停止していることを確認します。
2. 刈刃クラッチレバーがクラッチ「切」の時、スプリング F の長さが 125mm になるようにアジャストナット G を調整します。
3. 刈刃クラッチレバーがクラッチ「入」の時、スプリング F の長さが 140mm になるようにアジャストナット E を調整します。

7.8.4　HST ペダル



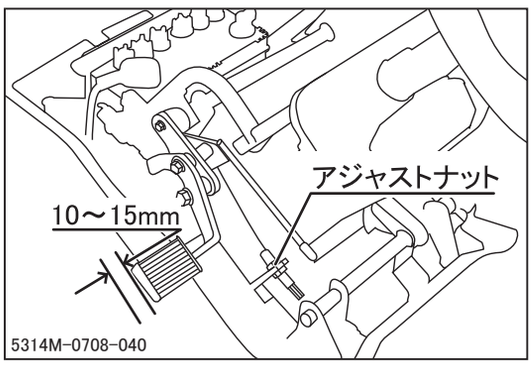
注　記

オーバホールをしたとき以外は調整の必要はありません。HST ペダルの「中立」位置の調整が不良の場合、車体が前または後に微動します。

⚠ 注　意

- **HST ペダルの「中立」位置が不良の場合、車体が前または後に微動し、思わぬ事故が発生する恐れがありますので、直ちに販売店へ調整を依頼してください。**
- **HST ペダルの「中立」位置の調整は、精密な作業を要しますので、必ず販売店へ調整を依頼してください。**

7.8.5　ブレーキペダル

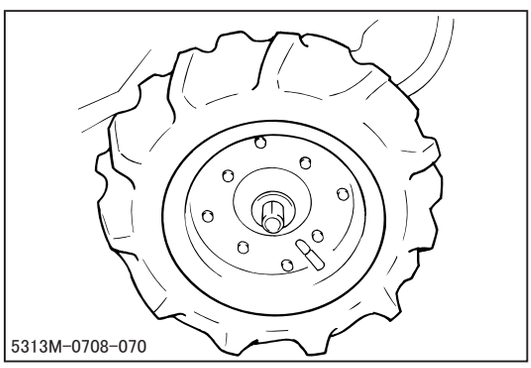


⚠ 注　意

ブレーキペダルの遊びが大きくなった場合は即座に下記の調整を行ってください。ブレーキの調整が悪いと、事故が起きる可能性があります。

ブレーキペダルを軽く押したとき、 遊びが先端で 10 ～ 15mm になるようにアジャストなとで調整してください。

7.8.6　タイヤの空気圧



前後のタイヤの空気圧を点検し、 標準値でない場合は調整します。

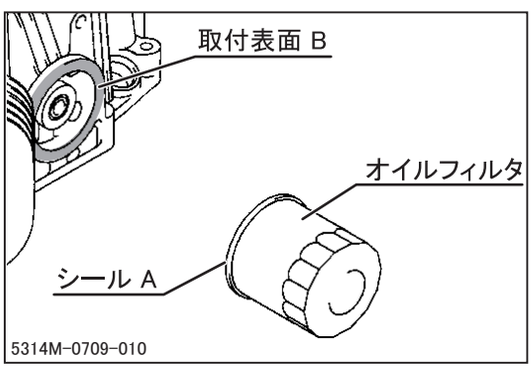
	タイヤサイズ	空気圧 kPa(kgf/ ㎠)
前　輪	4.00-7	240(2.4)
後　輪	16 × 7.00-8	240(2.4)

注　記

タイヤ（前後）にはパンク防止の為、タイヤ保護剤（ウルトラシール）が充填してあります。

7.9　交換

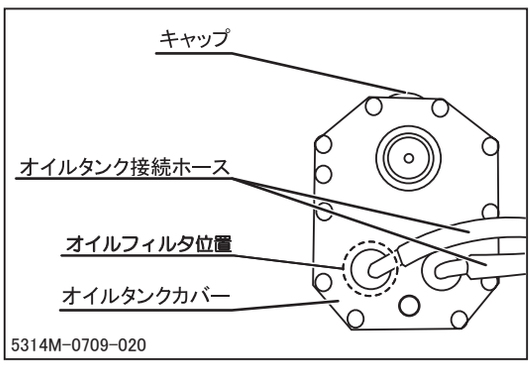
7.9.1　オイルフィルタ



オイルフィルタは運転 100 時間毎に交換してください。

1. 新しいフィルタを取り付ける前に、 シール A に新しいオイルを薄く塗ります。
2. フィルタは、 シール A がエンジン取付表面 B に当たるまで手で締め付け、 さらに 3/4 回転締め付けます。
3. オイルゲージを抜き、 適切なサービス等級と粘土グレードの新しいオイルを徐々に注入します。
   使用オイル：☞ 31 ページ
4. オイルレベルを点検する場合には、 オイルゲージをねじ込まずに差し込んでから外して確認します。
5. エンジンを始動し、 運転してオイル漏れがないか点検します。

7.9.2　HST オイルフィルタ



HST オイルフィルタは運転 500 時間毎または1年毎に交換して下さい。

1. HST タンク内のオイルを抜き取ります。
2. オイルタンク接続ホースを取り外します。
3. オイルタンクカバーを取り外し、 内部のオイルフィルタを新品のオイルフィルタと交換します。
4. オイルタンクカバー、 オイルタンク接続ホースを取付けます。
5. HST オイルを規定量まで注入します。

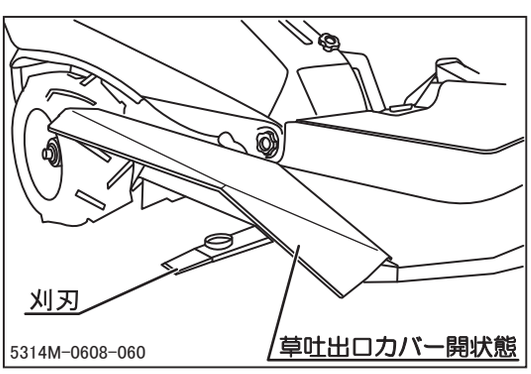
7.9.3　燃料ホース・HST オイルタンク接続ホース

燃料ホース等のゴム製品は、 使わなくても劣化します。 ホースバンドと共に、 2 年ごとに新品と交換してください。
（※ 損傷があるときは、 即座に交換して下さい。）

7.9.4　刈刃

⚠ 警　告

- **刈刃の点検・交換作業を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。 事故発生の原因となります。**
- **刈刃を扱うときは、ケガを避けるため、厚い手袋を使うか、厚い布で刃先を包んで慎重に取り扱ってください。**

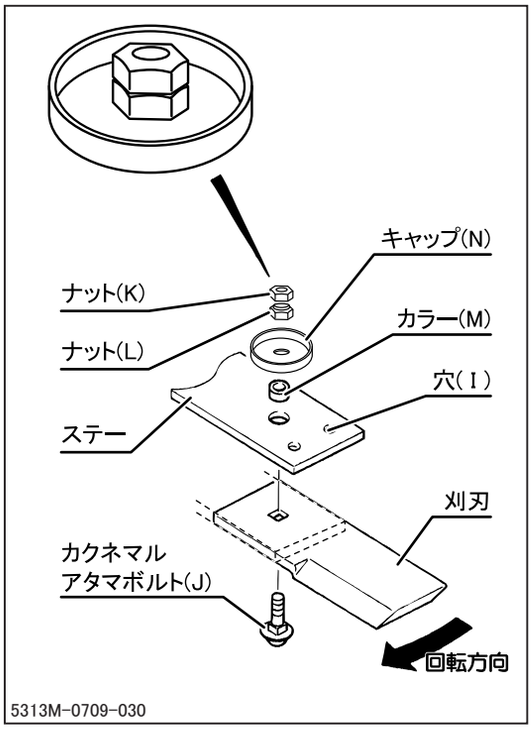


1. 右側の草吐出口カバーを開きます。

2. 刈刃が回転するのを防ぐ為、ドライバー等高強度の棒状のもの一本を、 刈刃ステーの**穴 (I)** に差込みます。
その際、ドライバー等の棒が差込めるように、 **カクネアタマボルト (J)** を中心に刈刃を回転させてずらします。
（左図破線）

⚠ 注　意

カクネアタマボルトは磨耗しますので必ず点検し、 磨耗がひどいときは必ず交換してください。



3. メガネレンチまたはソケットレンチを使用して、 **ナット (K)・ナット (L)** の順に外し、 刈刃を取外します。
4. ステーの下に新しい刈刃を重ねて、 下側から**カクネアタマボルト**を通します。
5. **カラー (M)・キャップ (N)** を**カクネアタマボルト**に通します。
6. 刈刃が回転するのを防ぐ為、ドライバー等高強度の棒状のもの一本を、 刈刃ステーの**穴 (I)** に差込みます。
   その際、ドライバー等の棒が差込めるように、 **カクネアタマボルト (J)** を中心に刈刃を回転させてずらします。
   (左図破線)
7. **ナット (L)** を取付け、 規定トルクにて締付けます。
8. **ナット (K)** を取付け、 規定トルクにて締付けます。
   締付け規定トルク
   M12 : 450 ～ 550 kgf・cm

7.10　使用後のお手入れ

(通常使用後のお手入れ)

- 使用後は車体・タイヤ・カバーに付着した草や泥などの異物をきれいに取除いてください。 エンジンやトランスミッション給油プラグ付近の水洗いは、 水の浸入や錆付の原因になるため避けてください。
- 屋外に放置する場合は、 エンジンが十分冷えてから防水カバーなどをかけて保管してください。

(寒冷期使用後のお手入れ)

- 使用後は車体・タイヤ・カバーに付着した草や泥などの異物をきれいに取除いてください。 付着物は、 凍結して故障の原因となります。
- コンクリートか固い乾燥した地面または角材の上に駐車させて下い。
- 屋外に放置する場合は、 エンジンが十分冷えてから防水カバーなどをかけて保管してください。

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。 無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください

8. 格納（長期保管）

長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞ 45 ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

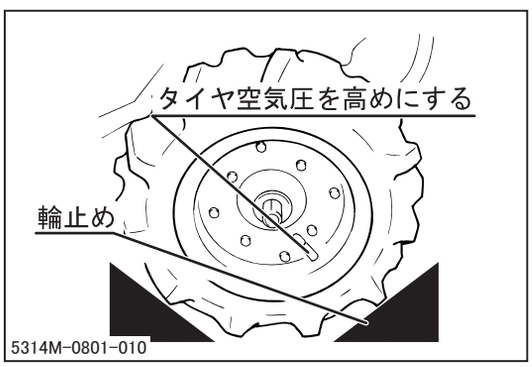
⚠ 危　険

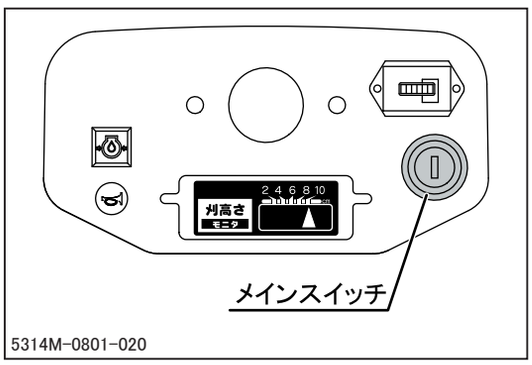
火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因になり危険です。

注　記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、カバー（ビニール等）を本機にかけてください。

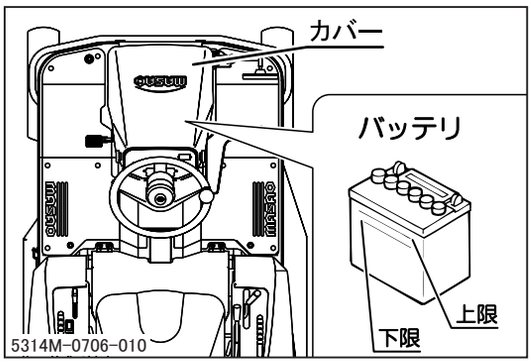
8.1 車両





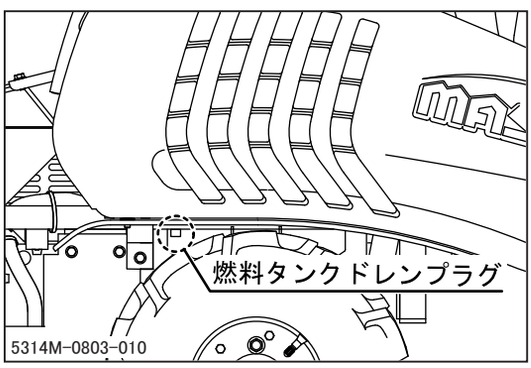
1. 「定期点検表」（☞28 ～ 30 ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば整備します。
2. 外面を油のしみた布で清掃し、さびやすい部分には注油します。
3. タイヤの空気圧を基準より高めにします。
4. 前輪の前後に輪止めをします。
5. 給脂および注油箇所に給脂および注油をします。（☞ 37 ページ）
6. メインスイッチからキーを抜きます。

8.2　バッテリ



1. 車両からバッテリを取り外します。
   （車体に取り付けて保管する場合は、－側のバッテリケーブルを取り外します。）
2. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。
3. 低温で乾燥した場合に保管します。
   参考：
   バッテリは使用しなくとも約 6 ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

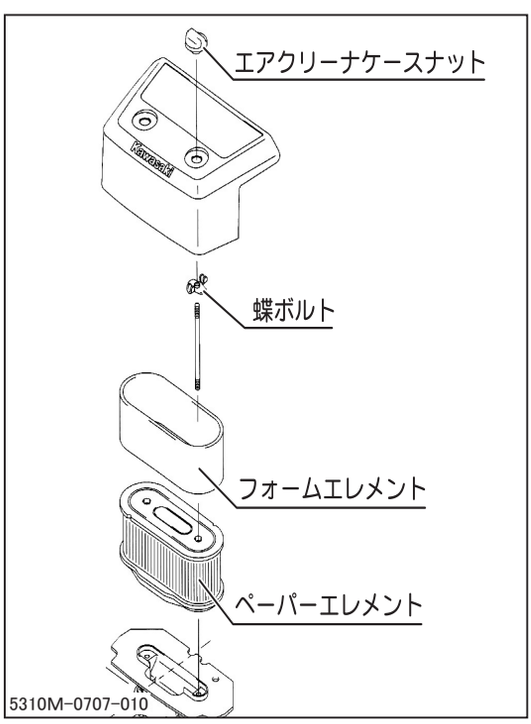
8.3　エンジン



注　記

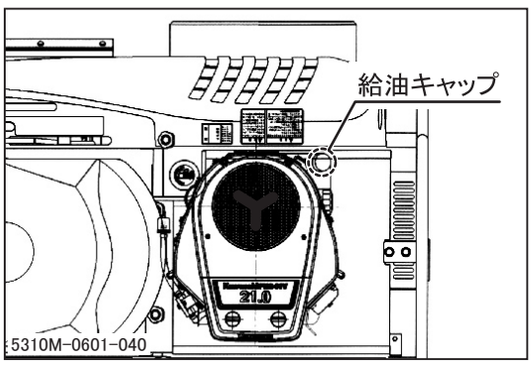
- **気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。**
- **エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。**

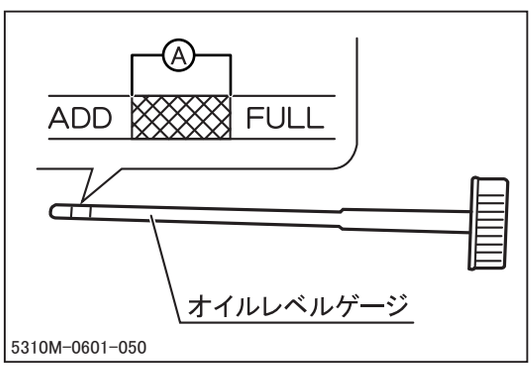
8.3.1　エアクリーナエレメントの清掃



エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。
(☞ 38 ページ)

8.3.2　エンジンオイルの交換





エンジンオイルを抜取り、 新しいエンジンオイルと交換します。 (☞ 33 ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。
- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンがかからない	・刈刃クラッチレバーのクラッチが「切」の状態になっていない（安全装置が作動している）	→「切」の状態にする
		・ブレーキペダルを踏んでいない（安全装置が作動している）	→ ブレーキペダルを踏む
		・バッテリの過放電	→ バッテリを充電する（☞ 37 ページ） → バッテリを交換する（☞ 37 ページ）
		・バッテリケーブルの外れ	→ 接続する
		・ヒューズ切れ	→ 交換する
		・電気配線（コネクタ）の接触不良または断線	→修理する（販売店へ依頼してください）
	エンジンがかかりにくい（始動困難）	・燃料不足	→ 補給する（☞ 15 ページ）
		・燃料への空気や水の混入	→ パイプおよび締め付けバンドを点検し、修理または交換する
		・燃料の吸い込みすぎ	→ 時間をおいて始動する
		・エンジンオイルの不足または品質不良（オイル粘度が高い）	→ 補給または交換する（☞ 33 ページ）
		・点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良	→ 清掃または交換する（☞ 39 ページ）
		・バッテリの容量不足（セルモータの起動不良）	→ バッテリ液を補充する → バッテリを充電する（☞ 37 ページ）
		・燃料系統内に不純物が浸入している	→ フューエルフルタを交換する（販売店へ依頼してください）
	すぐにエンストする	・燃料不足	→ 補給する（☞ 15 ページ）
	エンジンが突然停止した	・燃料切れ	→ 補給する（☞ 15 ページ）
		・エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き	→ 点検および補給する（☞ 33 ページ）
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	–	→ 販売店へお問い合わせください
	出力または加速不足	・Vベルトの緩み	→ 調整する
		・アクセルの調整不良	→ 販売店へお問い合わせください
		・エアクリーナの目詰まり	→ 清掃または交換する（☞ 38 ページ）

不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	・エンジン取付けボルトの緩み ・その他	→ 点検および増し締めする → 販売店へお問い合わせください
	エンジンオイル消費が早い	・エンジンオイルの漏れ	→ 点検および修理する
	エンジンのオーバーヒート	・エンジンオイルの不足 ・プロアハウジング、冷却フィンの目詰まり	→ 補給する（☞ 33 ページ） → 清掃する（☞ 40 ページ）
	燃料の消費が早い	・燃料系統からの燃料漏れ ・エアクリーナの目詰まり	→ 点検および修理する（販売店へ依頼してください） → 清掃または交換する（☞ 38 ページ）
	黒煙が大量に出る（排気状態の不良）	・チョークが完全に開いていない ・圧縮不良 ・エアクリーナの目詰まり ・エンジンオイルが入り過ぎている ・燃料不良	→ チョークレバーを「全開」の位置にする → 点検および修理する（販売店へ依頼してください） → 清掃または交換する（☞ 38 ページ） → 点検後、オイル量を調整する（☞ 33 ページ） → 燃料を交換する。
	白煙または青煙が出る（排気状態の不良）	・エンジンオイルが入り過ぎている ・燃料不良 ・シリンダ、ピストンリングの摩耗	→ 点検後、オイル量を調整する（☞ 33 ページ） → 燃料を交換する → 点検および修理する（販売店へ依頼してください）
動力伝達装置関連	HST ペダルを前進または後進にしても車体が動かない	・HST オイルが不足している ・駐車ブレーキがかかっている	→ 補給する（☞ 35 ページ） → 駐車ブレーキロックレバーを解除する
	HST ペダルを中立にしても車体が動く	・HST 変速リンクの中立位置調整がくるっている	→ 調整する（販売店へ依頼してください）
制動装置関連	効きが悪い	・ブレーキライニングの摩耗 ・ブレーキドラム内にオイルが浸入 ・ブレーキドラム内に水が浸入 ・タイヤの摩耗	→ ライニングを交換する（販売店へ依頼してください） → オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください） → 何回かブレーキをかけて中の水を乾かす → タイヤを交換する
	ブレーキペダルの遊びが過大	・調整不良	→ 調整する（☞ 43 ページ）
走行装置関連	ハンドルが重い	・タイヤ空気圧の調整不良 ・ステアリングギヤ内部の不具合	→ 調整する（☞ 43 ページ） → 修理する（販売店へ依頼してください）
	直進性が悪い	・タイロッドの調整不良	→ 調整する
車体関連	車体の異常振動	・タイヤ空気圧の調整不良 ・タイヤ取り付けボルトの緩み ・ホイールベアリングの破損 ・タイヤの亀裂	→ タイヤの空気圧を調整する（☞ 43 ページ） → 増し締めする → 交換する（販売店へ依頼してください） → 交換する

不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
灯火装置関連	前照灯の点灯不良	・配線不良	→ 接続する
		・球切れ	→ 交換する
		・ヒューズ切れ	→ 交換する
草刈装置関連	刈草がうまく放出されない	・草が湿っている	→ 草が乾燥してから作業する
		・草が長い	→ 刈高さを高くして、2度刈りをする
		・刈高さが低い	→ 刈高さを高くする
		・エンジン回転数が低い	→ 最高回転数にする
		・作業速度が速い	→ 作業速度を落とす
	刈残しができる	・作業速度が速い	→ 作業速度を落とす
		・エンジン回転数が低い	→ 最高回転数にする (エンジン回転をチェックする)
		・草が長い	→ 2度刈りをする
		・刈刃の摩耗、破損	→ 新しい刈刃と交換する (☞ 44 ページ)
		・ロータリカバー内面への草の堆積	→ ロータリカバー内面を清掃する
	土削りを発生する	・刈高さが低い	→ 刈高さを高くする (☞ 24 ページ)
		・旋回速度が速い	→ 旋回時の速度を落とす
		・地形にうねりがある	→ 草刈作業のパターン（刈取方向等）を変える
		・地形に起伏（凹凸）が多い	→ 刈高さを高くする
		・刈刃の曲がり	→ 新しい刈刃と交換する (☞ 44 ページ)
	刈刃が回らない	・刈刃駆動プロペラシャフトの駆動ピン折損	→ 駆動ピンを交換する
		・刈刃ロータリ V ベルトのすべり	→ 刈刃ロータリ V ベルトの張り調整をする。
	振動が大きい	・ロータリカバー内およびプーリに草が堆積している	→ ロータリカバーおよびプーリを清掃する
		・ベルトの破損	→ 新しいベルトに交換する
		・プーリの破損	→ 新しいプーリに交換する
		・刈刃の破損	→ 新しい刈刃に交換する (☞ 44 ページ)
	刈取り作業負荷が大きい	・刈刃のバランスが悪い	→ 新しい刈刃と交換するか、刈刃のバランスをとる (☞ 44 ページ)
		・エンジン回転が低い	→ エンジン回転数を最高にする (エンジン回転数をチェックする)
		・作業速度が速い	→ 作業速度を落とす
		・刈刃の回転軸周りに草が堆積あるいは巻き付いている	→ 刈刃を清掃する

10. 本製品の移送

本製品の移送のために自動車（トラック）へ積降ろしする際は、 下記の手順および注意事項を厳守してください。

1. アユミ板は、 十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、 幅（タイヤ幅の 2 倍以上）、 長さ（本製品を積載するトラックの荷台床面高さの 3 倍以上）のあるすべり止め付のものを使用し、 本製品重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
2. アユミ板のフックは、 荷台に段差のないように、 また、 ずれないように確実にかけてください。

5314M-1000-010

⚠ 危　険

- 作業中は本製品およびアユミ板の周辺には、 人を近づけないようにしてください
- アユミ板上での方向転換は行わないでください。 転落の危険があります。
- アユミ板を上がるとき、 または下るときは、 低速にてゆっくりと走行してください。

⚠ 注　意

アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。

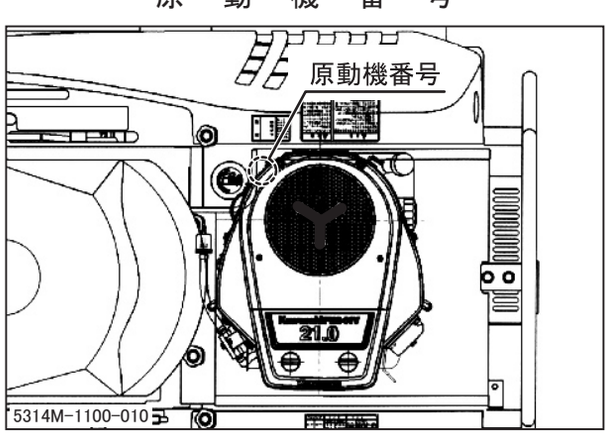
11. 小型特殊自動車登録申請の手続き

この車の所有者となった方は、 市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。（詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください）

市町村役場の登録申請書記載事項

搭　載　エ　ン　ジ　ン	カワサキFH641V
種　　別　　用　　途	小型特殊自動車
車　　名	チクスイCM2103
型　　式	チクスイCM2103
年　　式	年式は購入された年を記入してください
原　動　機　番　号	＊エンジンの打刻をみて記入してください
原 動 機 総 排 気 量	675cc
車　　体　　番　　号	＊車体番号については、シートカバー下車体中心に打刻してあります
型 式 認 定 番 号	申請中
形　　状	草刈作業車

原　動　機　番　号



車　　体　　番　　号